

奈良県民のくらしに関する調査

—分析結果報告書（概要版）—



奈良県

《 目 次 》

I. はじめに	1
1. 調査の概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期日	1
(4) 回収結果	1
2. 地域の区分	1
II. 回答者の属性	2
1. 地域別	2
2. 男女別	2
3. 年齢別	3
4. 世帯類型	3
III. 生活行動	4
1. 世帯員の生活行動	4
(1) 主に家事を担当する人 (問 5)	4
(2) 未就学児の子育てについて (問 6・問 8)	5
(3) 買い物の際の交通手段 (問 14①)	7
(4) 品目ごとの買い物をした地域 (問 15①)	9
2. 就業の状況と就業に関する生活行動	10
(1) 就業者の雇用形態 (問 1⑤)	10
(2) 女性・配偶者の就労状況 (問 1⑤)	11
IV. つながり	12
1. 別居している親戚とのつながり	12
2. 地域社会とのつながり	13
(1) 近所とのつきあいの程度 (問 17)	13
(2) 近所づきあいの程度と地域社会・地域活動との関係	15
V. 家計の状況	16
1. 支出	16
2. 収入	18
3. 貯蓄	20
4. 借入金	22
VI. 家計のゆとり・苦しさに関する状況	24
1. 総合的な家計の状況 (問 26)	24
2. 家計の状況と収入との関係	26
3. 家計の状況と貯蓄との関係 (問 24)	28
4. 家計の状況と借入金との関係 (問 25)	29
5. 家計の状況と就業状況との関係	30
VII. 「5つの構想案」に関連するデータ	31
1. 健やかに生きる	31
(1) 余暇の取得状況	31
(2) 余暇・自由時間の過ごし方	32
2. 奈良に暮らす	35

(1) 住まいの状況（問 2）	35
(2) 世帯主の県外からの転居経験の有無（問 3-1）	37
(3) 世帯主が奈良に住み始めた時期（問 3-2）	39
(4) 世帯主が奈良県に住むようになったきっかけ（問 3-3）	41
(5) 奈良県に住もうと決めた理由（問 3-4）	43
VIII. 南和地域のくらしの特徴	44
1. 世帯の状況	44
(1) 世帯主の年齢構成と子どもの有無	44
(2) 世帯類型	44
2. 経済状況	45
(1) 月間支出（問 22）	45
(2) 年間収入（問 22）	46
(3) 貯蓄の状況（問 24）	47
(4) 総合的な家計の状況（問 26）	47
3. 定住	48
(1) 現在の居住状況と住み始めた時期（問 3-1・3-2）	48
(2) 居住形態（問 2）	48
4. しごと	49
(1) 就業形態（問 1-⑤）	49
(2) 就業先の産業（問 1-⑥）	49
5. まちづくり、地域と人のつながり	50
(1) 別居している親戚とのつながり（問 16）	50
(2) 近所づきあいの程度（問 17）	50

I. はじめに

1. 調査の概要

(1) 調査対象

奈良県内の全市町村を対象に、一般家庭の中から約1万世帯を無作為に抽出。

(2) 調査方法

調査員が各世帯を訪問し、留置により調査。

(3) 調査期日

平成21年10月1日。

(4) 回収結果

回収率：88.7%（調査票配布10,285世帯に対し、9,127世帯が回答）

2. 地域の区分

本調査において、地域別の分析を行っている場合は、特に断っている場合を除き、以下の区分に依っている。

図表I-1 奈良県における地域の区分

区分名	市町村名
地域1 (北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町
地域2 (西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町
地域3 (中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町
地域4 (東部)	桜井市・宇陀市・曽爾村・御杖村
地域5 (南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
地域6 (南西部)	五条市・野迫川村・十津川村

(資料) 奈良県資料

II. 回答者の属性

1. 地域別

- ・ 概ね国勢調査(平成 17 年)の人口分布に沿って回答が得られている。
- ・ 北部(奈良市など)が全体の半数近くを占めている。

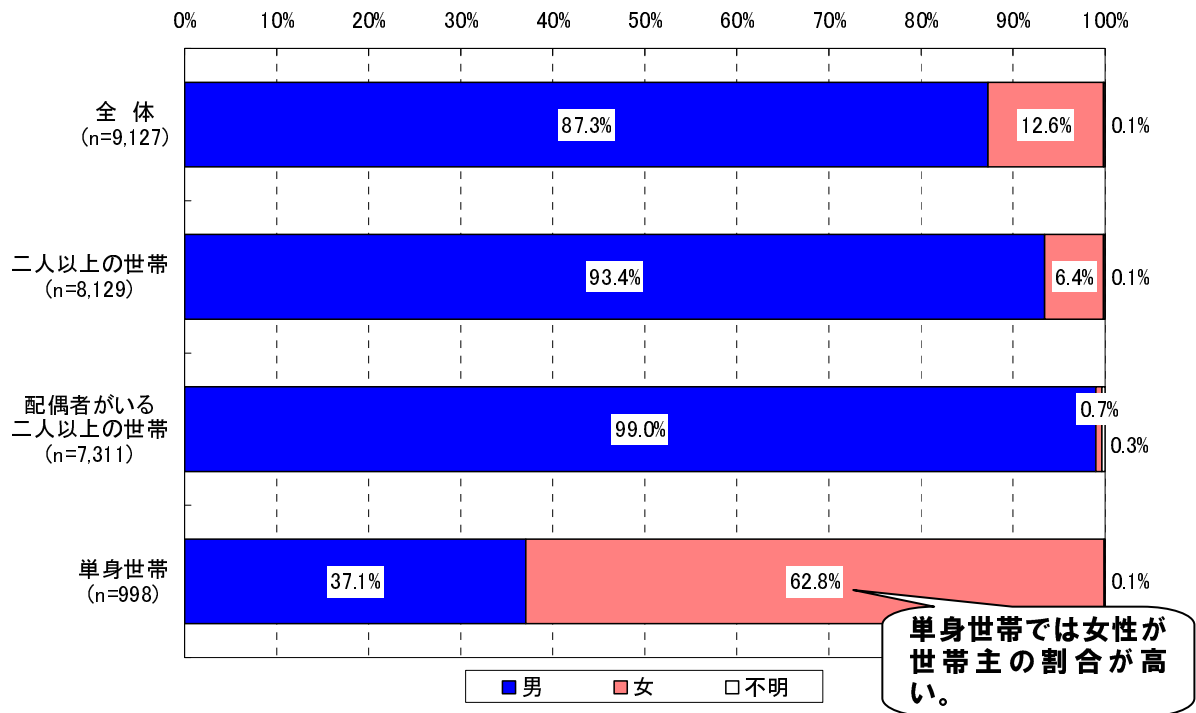
図表II-1 回答者の地域別分布

	本調査		国勢調査('05)	
	実数	比率	実数	比率
北 部	4,373	47.9%	254,885	50.9%
西 部	896	9.8%	51,100	10.2%
中 部	2,225	24.4%	130,168	26.0%
東 部	677	7.4%	34,043	6.8%
南 東 部	620	6.8%	16,564	3.3%
南 西 部	336	3.7%	14,234	2.8%
県 全 体	9,127	100.0%	500,994	100.0%

2. 男女別

- ・ 本調査は「世帯主」に記入していただく形式を取っている。
- ・ 世帯主は9割近くが男性。ただし、単身世帯に限った場合、世帯主が女性(女性の一人暮らし)である世帯が6割を超えている。

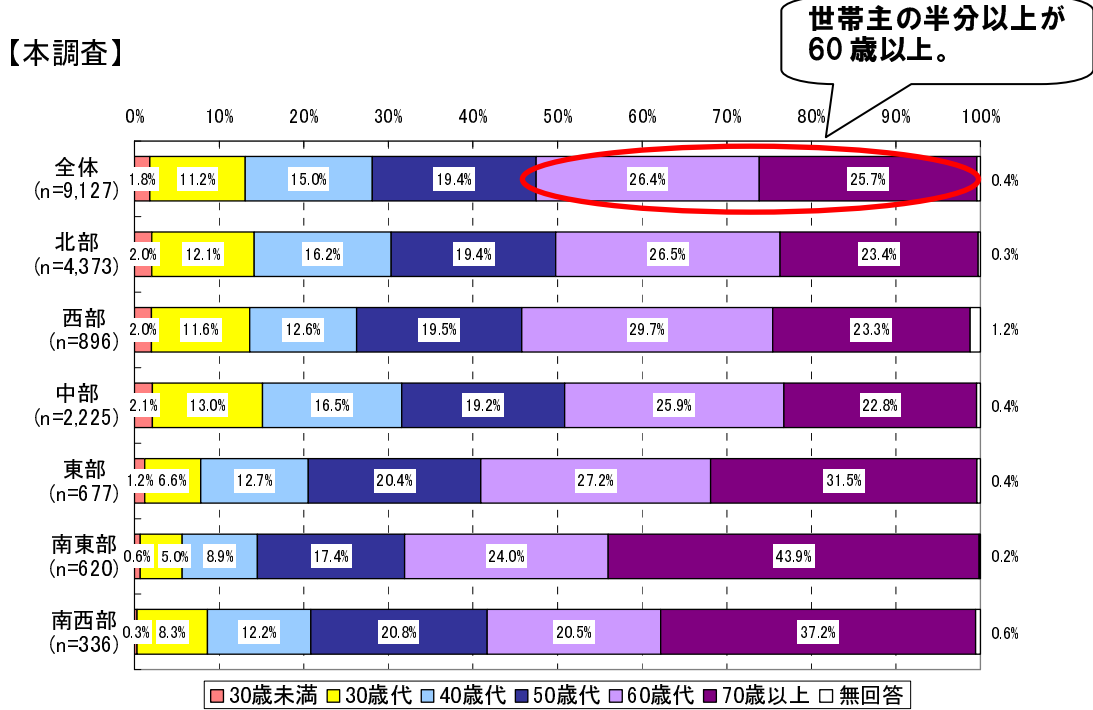
図表II-2 世帯主の男女比率



3. 年齢別

- ・ 全体の 50%以上の世帯主が 60 歳以上となっている。国勢調査の結果(平成 17 年)と比べ、やや世帯主が高齢者である比率が高くなっている。

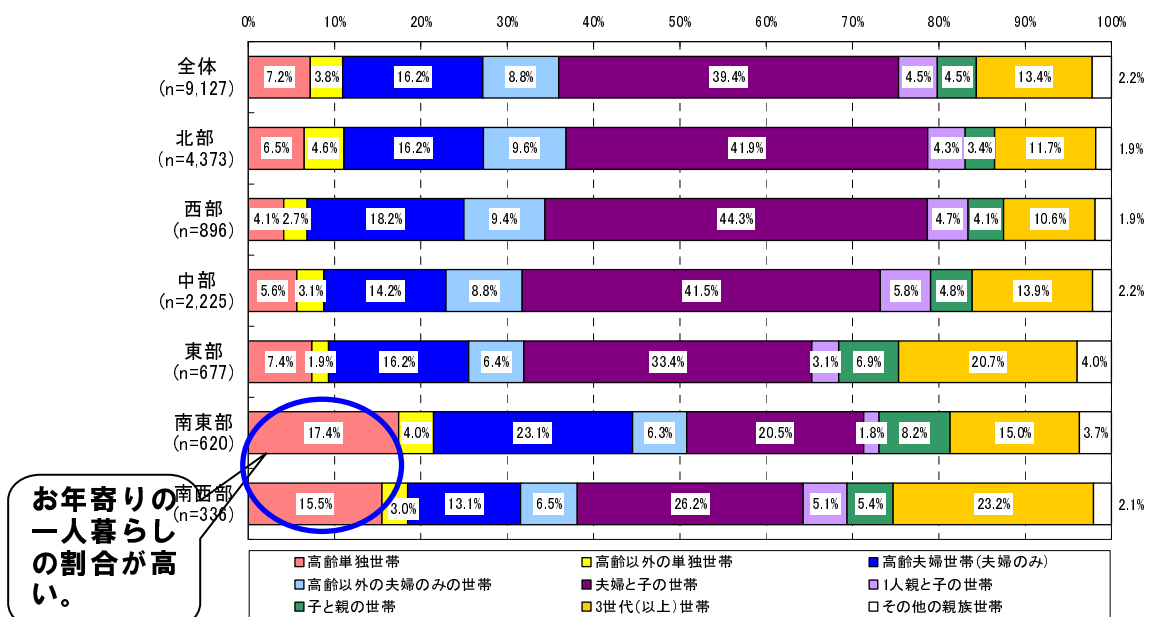
図表II-3 回答者の世帯主年齢別分布



4. 世帯類型

- ・ 本調査の回答者の世帯は、県全体では「夫婦と子の世帯」が 39.4%を占めている。地域別にみると、南東部や南西部において、高齢単独世帯の比率が高くなっている。

図表II-4 回答者の世帯の世帯類型



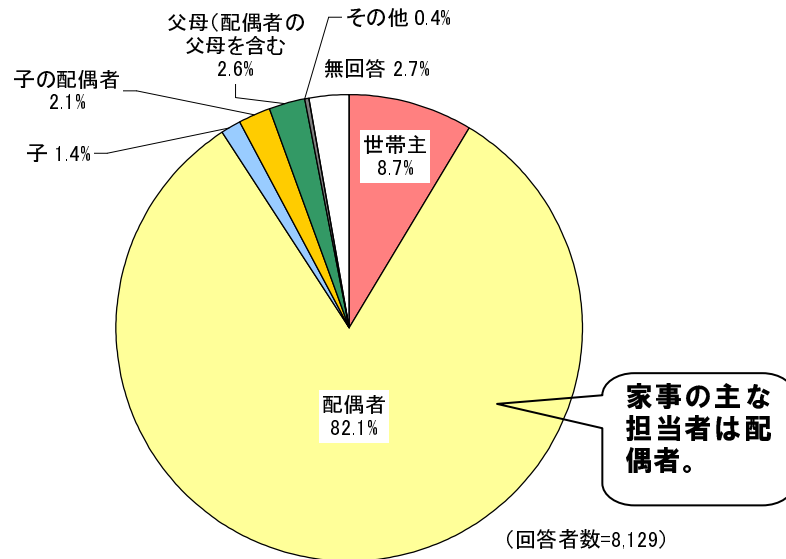
III. 生活行動

1. 世帯員の生活行動

(1) 主に家事を担当する人(問 5)

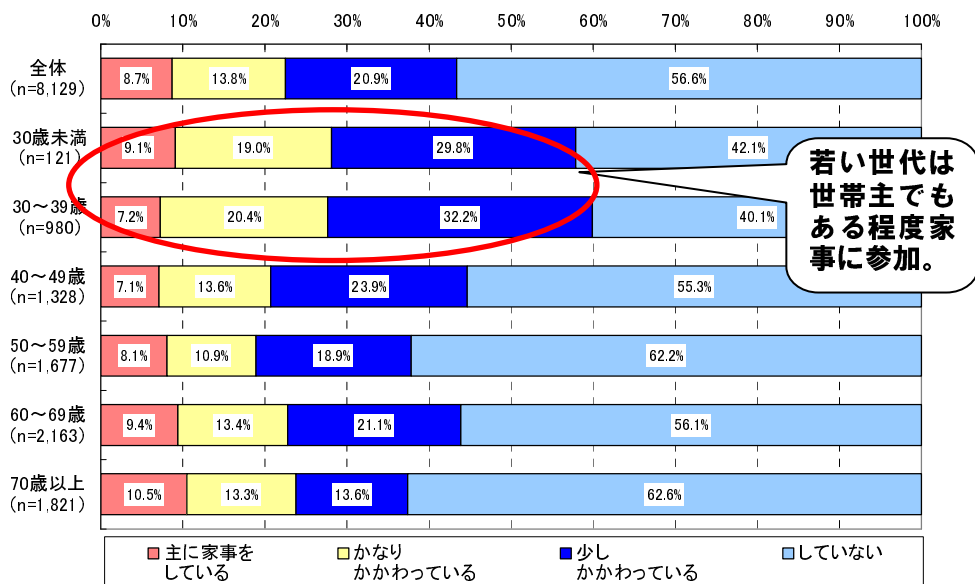
- ・ 主に家事を担当しているのは「配偶者」という回答が8割以上を占めている。
- ・ 30歳未満や30歳代の若い世帯主は比較的積極的に家事にかかわっている。

図表III-1 主に家事を担当する人



(注) 世帯主・配偶者の男女内訳は、世帯主男：3.9%、世帯主女：4.8%、配偶者男：0.2%、配偶者女 81.6%、配偶者性別不明：0.3%

図表III-2 年齢別にみた世帯主の家事へのかかわり(単身世帯以外)

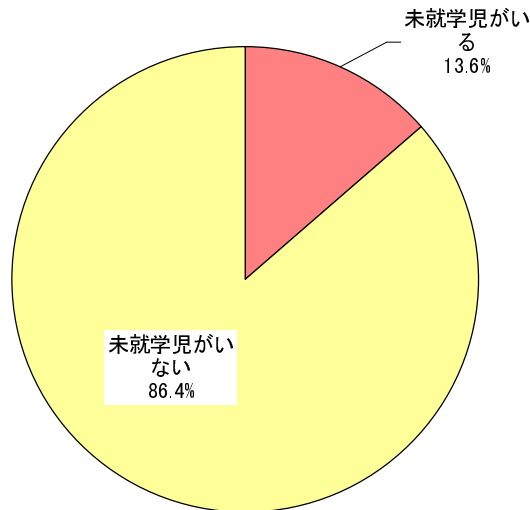


(注) 単身以外の世帯における世帯主を対象に集計。

(2) 未就学児の子育てについて(問 6・問 8)

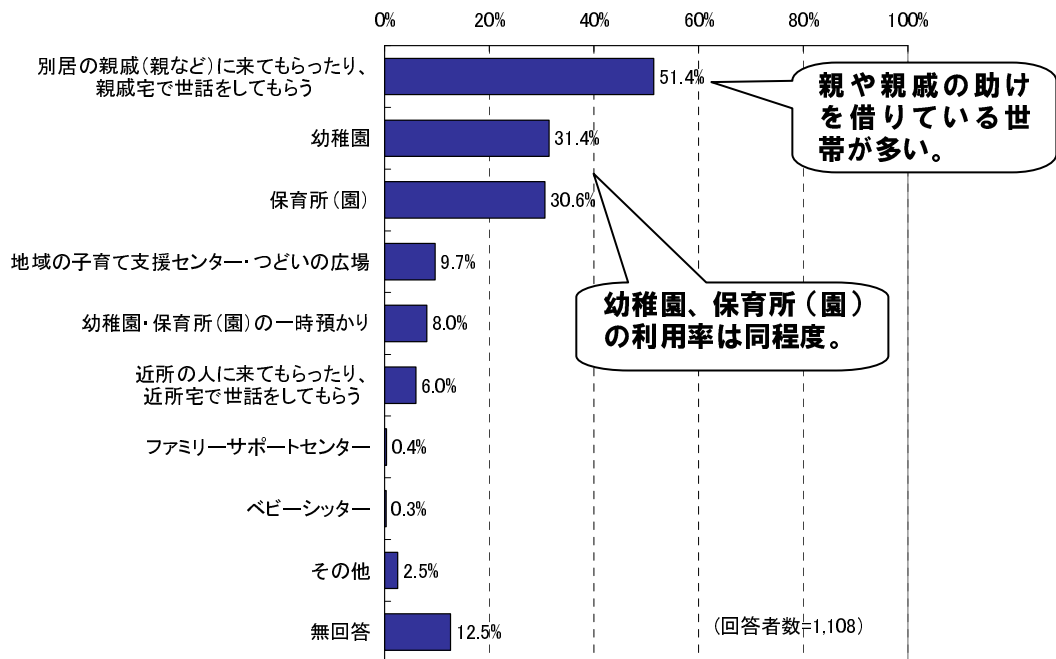
- ・ 単身世帯以外の世帯のうち、世帯員の中に未就学児がいるのは 13.6%。
- ・ 未就学児がいる世帯では、親などの親戚に来てもらったり、家に預けたりして支援を受けているところが多い。

図表III-3 未就学児の有無



(回答者数=8,129)

図表III-4 利用しているサービスや支援(複数回答)

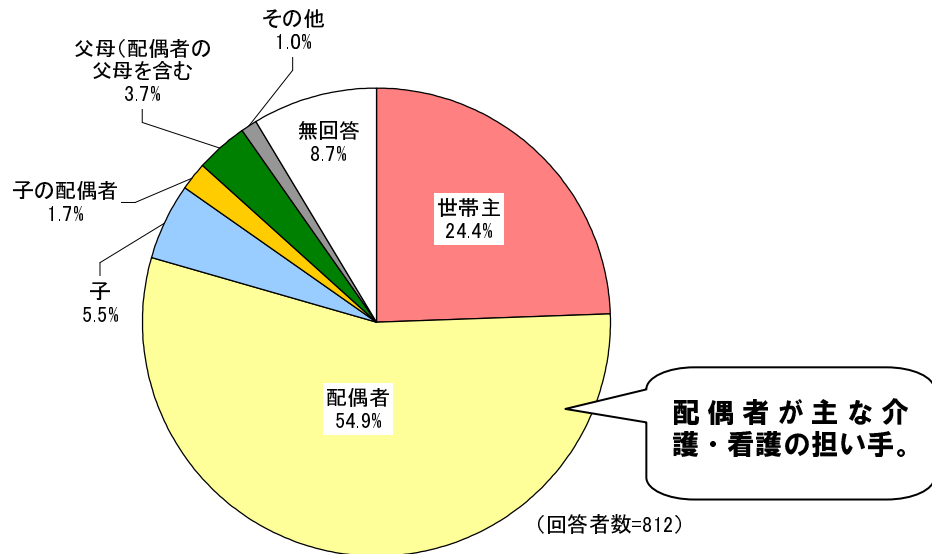


(3) 介護・看護の担当者(問 10)

- ・「介護や看護が必要な方がいる」という世帯において、中心となって介護を担っているのは配偶者である世帯の比率が高い。
- ・南西部では他地域と比較して世帯主や子が介護・看護を行っているという比率が比較的高い。

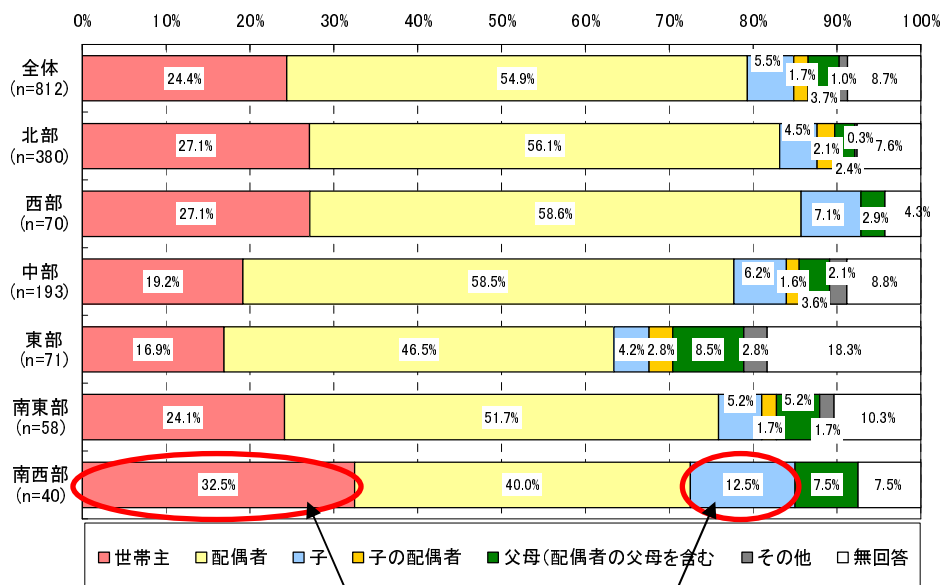
図表III-5 介護・看護の担当者

【全体】



(注) 世帯主・配偶者の男女内訳は、世帯主男：20.1%、世帯主女：4.3%、配偶者男：0.0%、配偶者女 54.6%、配偶者性別不明：0.3%

【地域別】



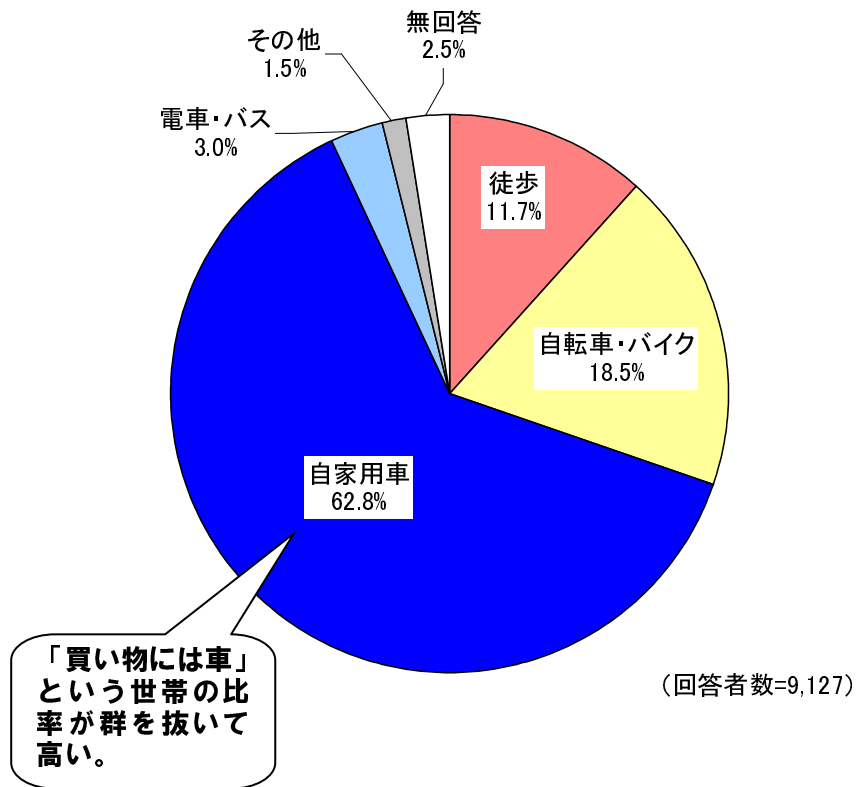
南西部では世帯主や子が介護・看護を行っている比率が比較的高い。

(4) 買い物の際の交通手段(問 14①)

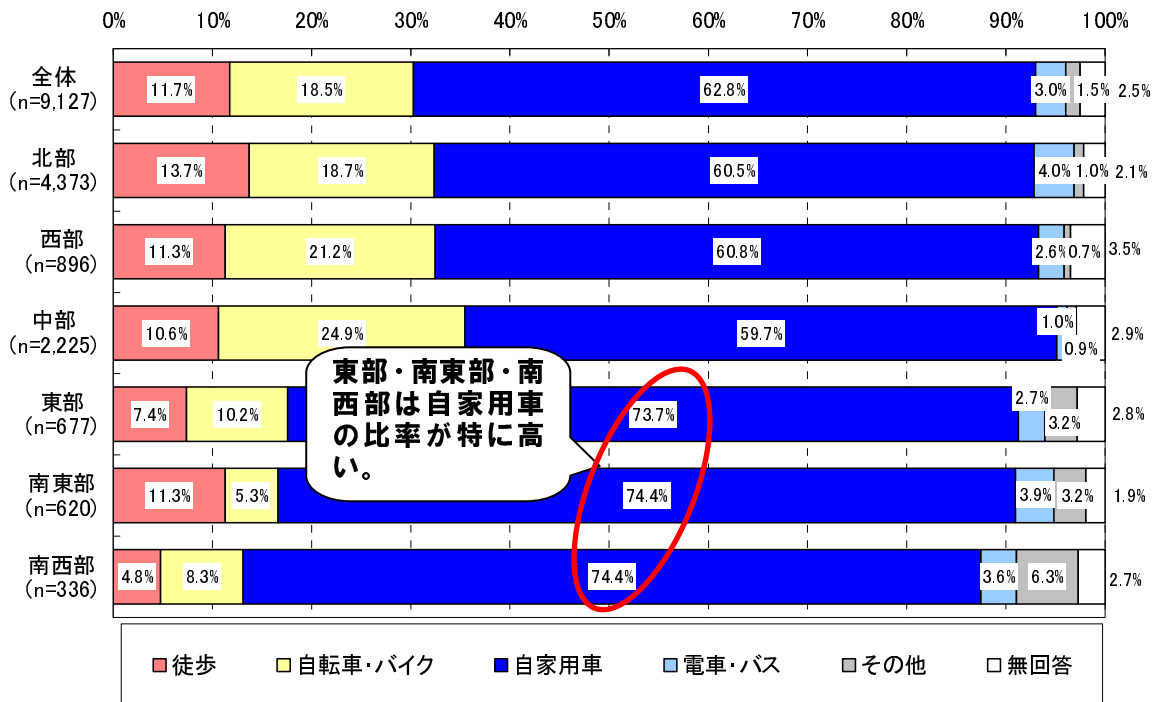
- ・ 全体では、「自家用車」という回答が群を抜いて多い。
- ・ 東部・南東部・南西部では「自家用車」という回答の比率が他の地域と比べて特に高くなっている。
- ・ 世帯主が 30-50 歳代の世帯で、「自家用車」という回答の比率が他の世代と比べて高い。一方、世帯主の年齢が 60 歳以上になると、「自家用車」の比率は低くなり、「徒歩」の比率が高まる。

図表III-6 買い物の際の主な交通手段

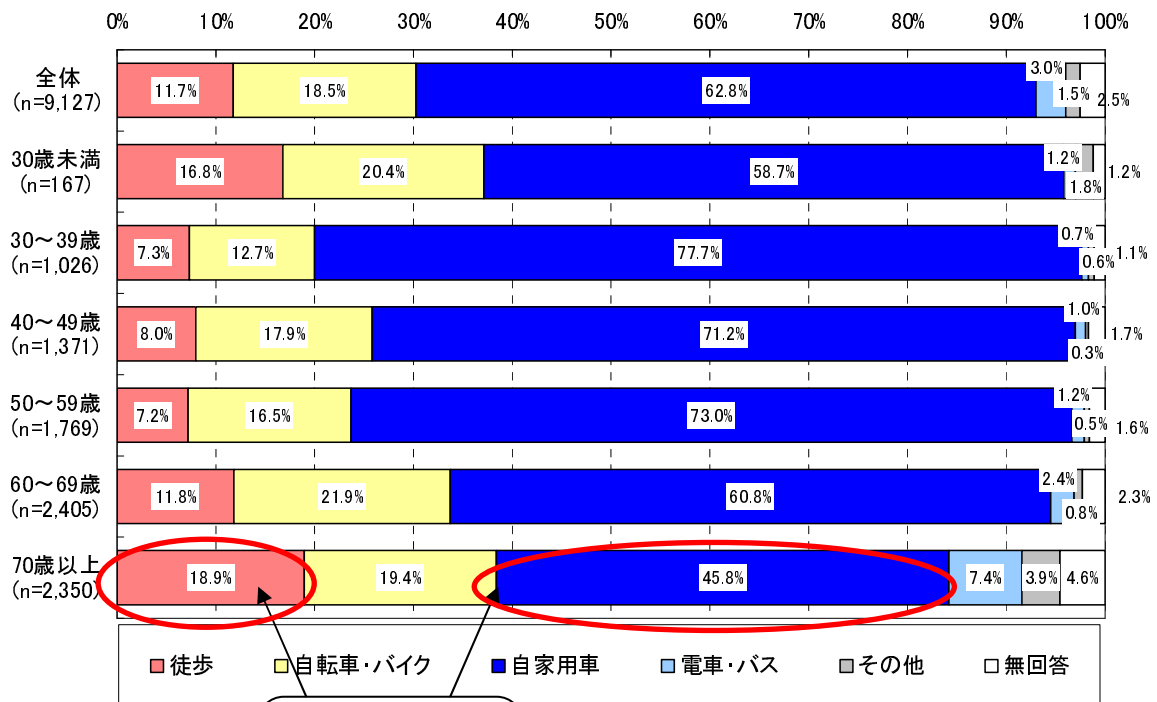
【全体】



【地域別】



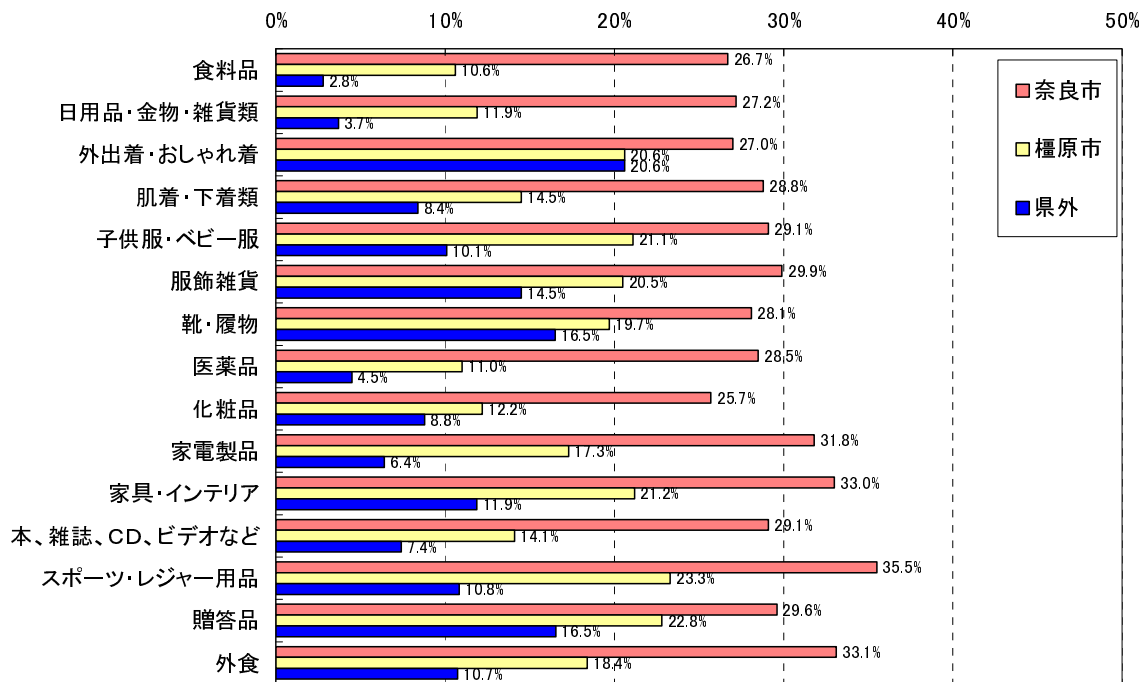
【世帯主年齢別】



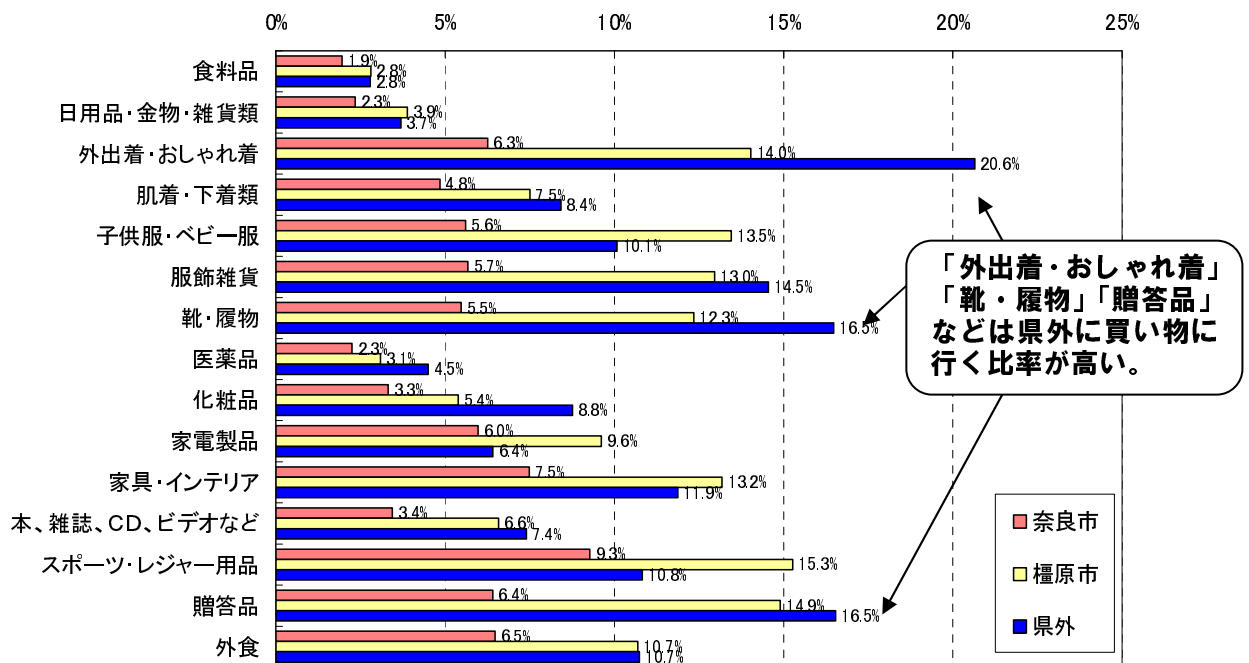
(5) 品目ごとの買い物をした地域(問 15①)

- ・ 回答者全体で見ると、奈良市で買い物をしている比率が高い。
- ・ 県内で、自市郡以外から多くの買い物客を集めているのは橿原市であることがわかる。
- ・ 「外出着・おしゃれ着」「贈答品」「靴・履物」など、県外という回答の比率が高い品目も多い。

図表III-7 品目ごとの買い物をした地域



図表III-8 他の市郡から奈良市・橿原市・県外へ買い物に行く比率



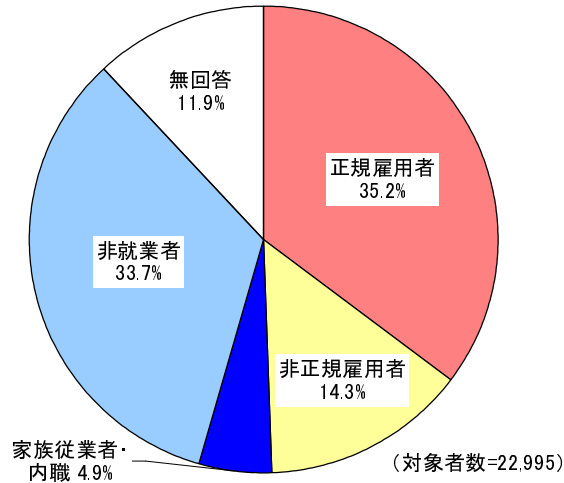
(注) 県外はすべて他の市郡にあたるため前出のグラフと値は同じ。

2. 就業の状況と就業に関する生活行動

(1) 就業者の雇用形態(問1⑤)

- ・ 高齢化を反映し、非就業者の割合がおよそ3分の1を占めている。
- ・ 20歳代と40歳代で比較的非正規雇用者の比率が高い。

図表III-9 就業者の雇用形態



(注1) 20歳以上の世帯員全体を対象としているため、対象者数は調査票回収数を超えている。

(注2) 集約・整理した就業形態の分類は以下の通り。

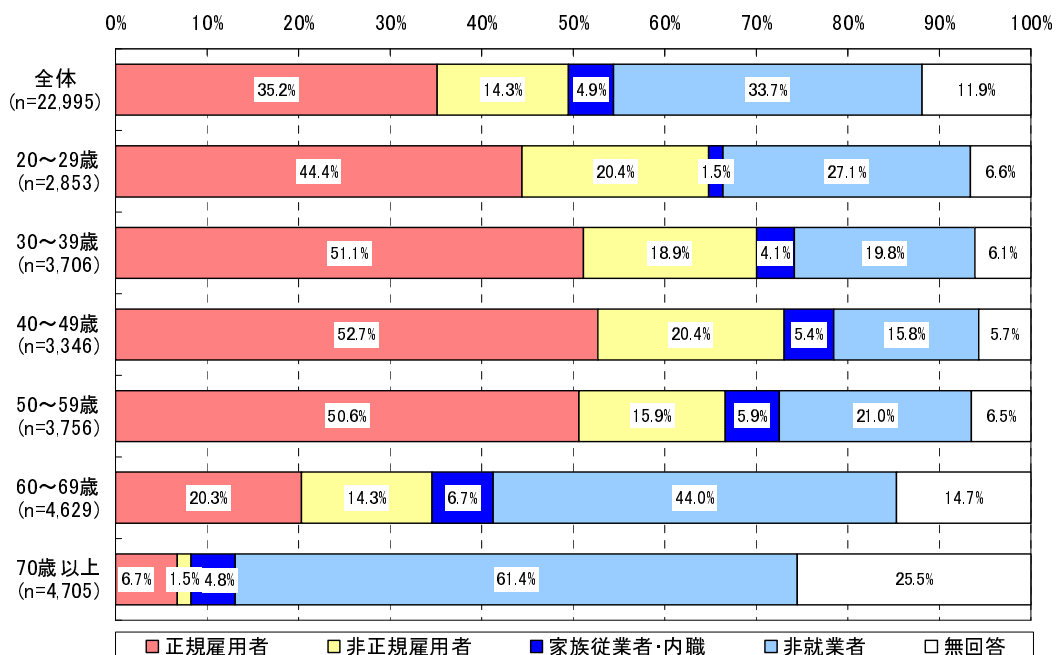
正規雇用者: 正規の職員・従業員、会社などの役員 雇人がいる事業主、雇人がいない事業主

非正規雇用者: 契約社員、派遣社員、パート・アルバイト(学生バイトを含む)

家族従業者: 家族従業者、内職

非就業者: 非就業の学生(予備校生・自宅浪人を含む)、非就業(学生を除く)(職を探している)、非就業(学生を除く)(職を探していない)

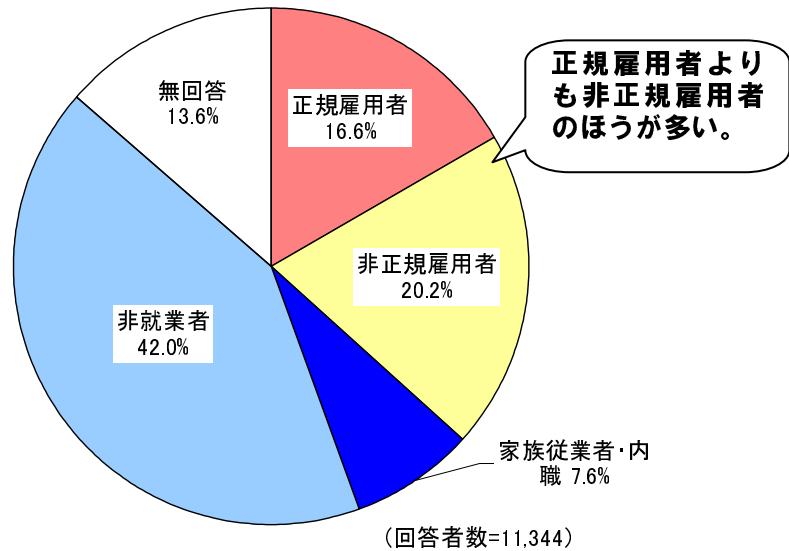
【世帯員年齢別】



(2) 女性・配偶者の就労状況(問1⑤)

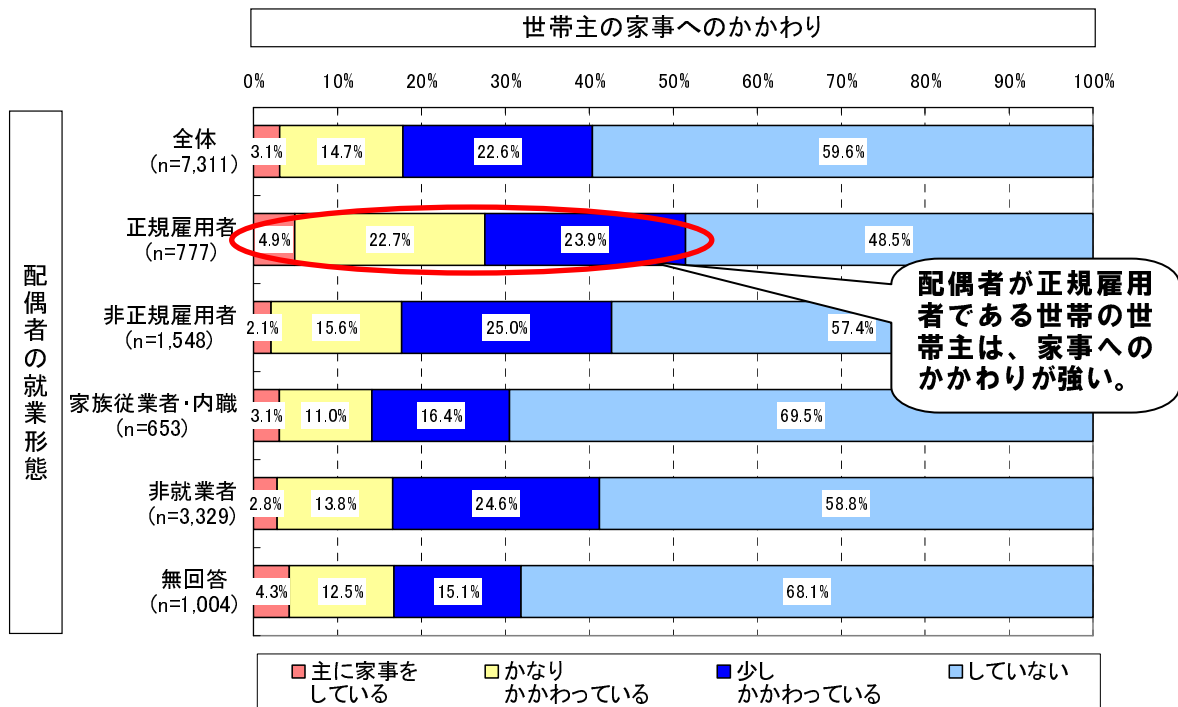
- ・ 女性は非就業者が4割を超えている。また、就業者でみると、正規雇用者よりも非正規雇用者の方が割合が高い。
- ・ 配偶者が正規雇用者である世帯では、世帯主が家事にかかわっている比率が高い。

図表III-10 女性の就労状況



(注1) 20歳以上の女性の世帯員全体を対象としているため、対象者数は調査票回収数を超えている。
 (注2) 集約・整理した就業形態の分類は図表 III-9と同様

図表III-11 配偶者の就業形態別にみた世帯主の家事へのかかわり



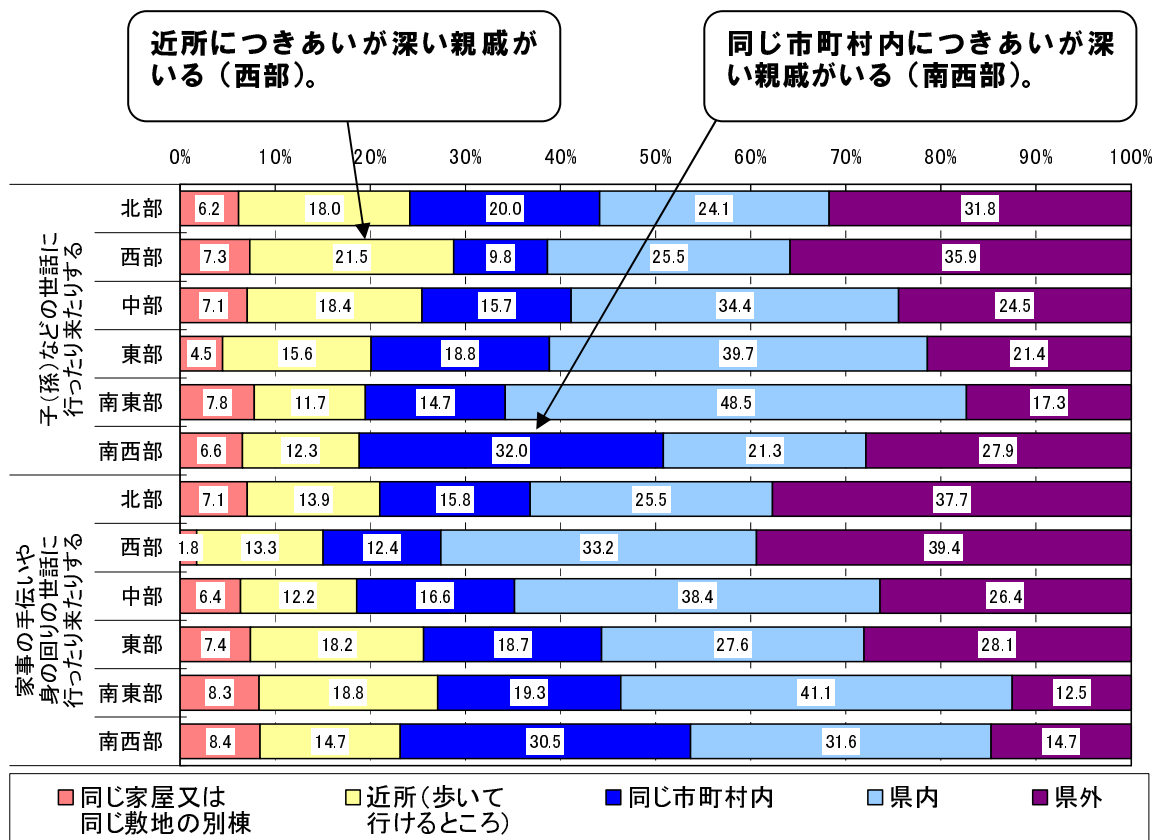
(注1) 配偶者のいる世帯の世帯主を対象に集計
 (注2) 正規雇用者である配偶者 (n=777) の男女内訳は男性 19 名、女性 756 名、性別不明 2 名

IV. つながり

1. 別居している親戚とのつながり

- ・ 子(孫)などの世話や家事の手伝いなど比較的内容の濃いつきあいをしている親戚がどこに住んでいるかを、地域別に分析した。
- ・ 「子(孫)などの世話に行ったり来たりする」親戚が「県外」にいると回答した比率が高いのは西部で、低いのは南東部。ただし、西部は「近所(歩いていけるところ)」という回答の比率も高い。
- ・ 「家事の手伝いや身の回りの世話に行ったり来たりする」親戚については、北部と西部で「県外」の比率が高く、南東部・南西部で比率が低いという傾向が顕著。

図表IV-1 つきあいの深い親戚の居住地



(注1) 本調査で対象とした「親戚」は以下の通り。「世帯主の親」「配偶者の親」「世帯主と配偶者の子」「世帯主の兄弟姉妹」「配偶者の兄弟姉妹」。

(注2) 各地域における「子(孫)などの世話に行ったり来たりする」「家事の手伝いや身の回りの世話に行ったり来たりする」という親戚の数を分母として、それぞれの居住地を分子にとって比率を算出している。

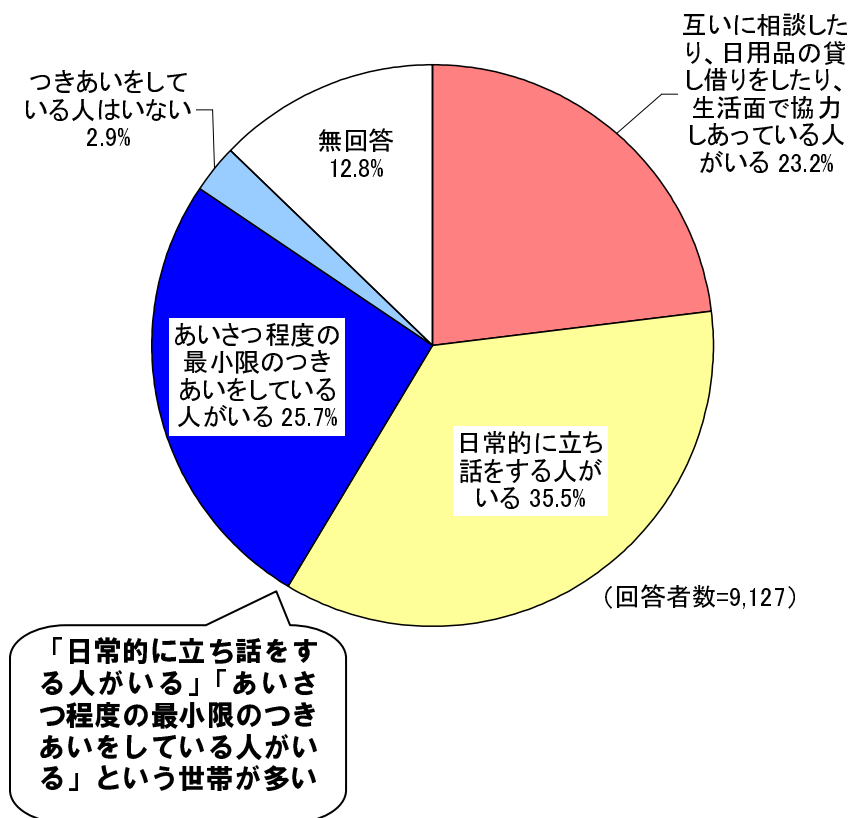
2. 地域社会とのつながり

(1) 近所とのつきあいの程度(問 17)

- ・ 近所づきあいの程度は「日常的に立ち話をする人がいる」「あいさつ程度の最小限のつきあいをしている人がいる」といった回答の比率が高い。
- ・ 東部・南東部・南西部では「互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力しあっている人がいる」という回答の割合が全体と比較して高い。
- ・ 30歳未満においては、「つきあいをしている人はいない」という回答が21.0%と他の年代に比べて目立って高い

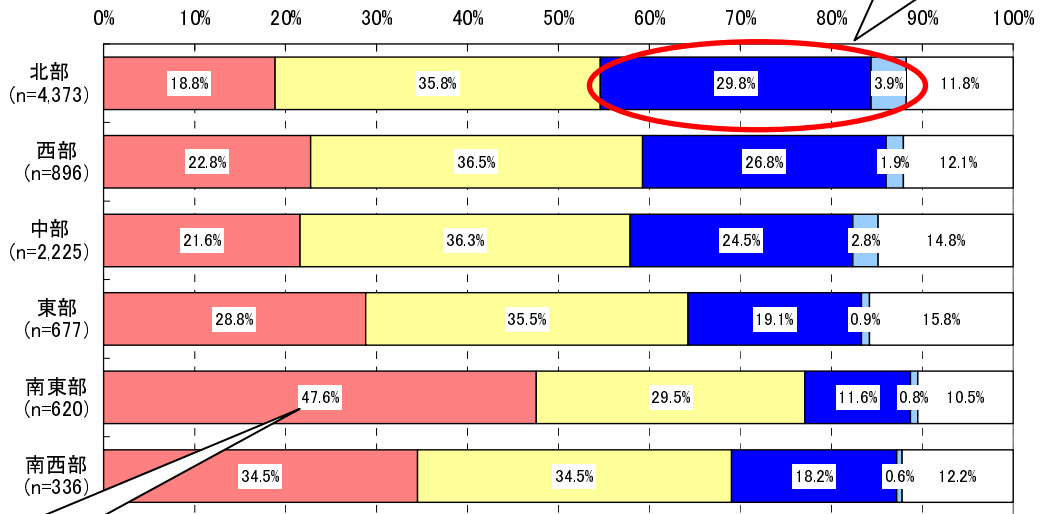
図表IV-2 近所とのつきあいの程度

【全体】



【地域別】

北部は近所づきあいが薄い世帯の比率がやや高い。

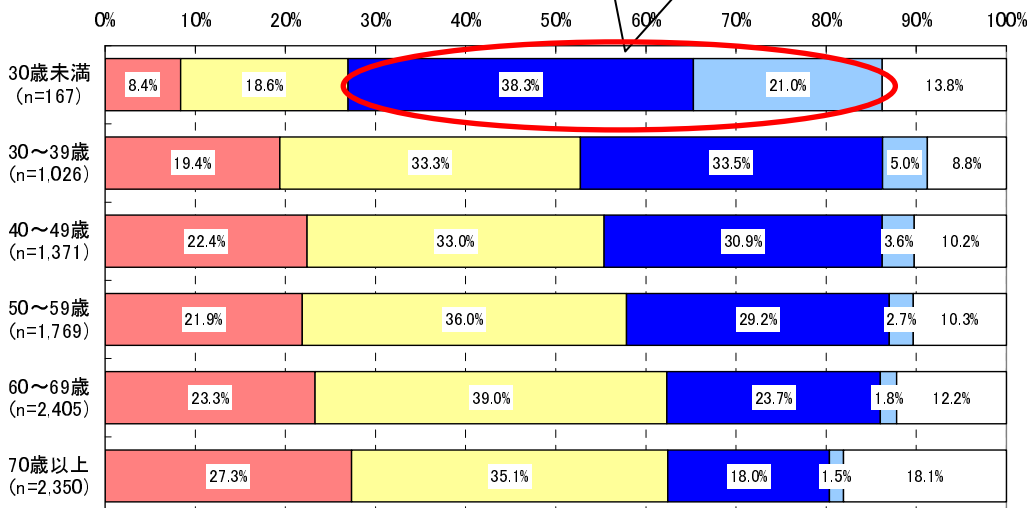


南東部は近所づきあいが深い世帯の比率が高い。

- 互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力しあっている人がいる
- 日常的に立ち話をする人がいる
- あいさつ程度の最小限のつきあいをしている人がいる
- つきあいをしている人はいない
- 無回答

【世帯主年齢別】

世帯主が30歳未満の若い世帯は近所づきあいが薄い傾向が顕著。



- 互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力しあっている人がいる
- 日常的に立ち話をする人がいる
- あいさつ程度の最小限のつきあいをしている人がいる
- つきあいをしている人はいない
- 無回答

(2) 近所づきあいの程度と地域社会・地域活動との関係

- ・ 近所づきあいの深い世帯ほど、「自治会・町内会」を始めとして、多様な地域団体に加入している比率が高い。
- ・ 「つきあいをしている人はいない」という世帯は地域団体に「加入していない」という回答の比率が顕著に高い。
- ・ 近所づきあいの深い世帯ほど、多様なボランティア活動へ参加しているという回答の比率が高い。
- ・ 「つきあいをしている人はいない」という世帯は「参加していない」という回答の比率が顕著に高い。

図表IV-3 近所づきあいの程度別にみた地域団体への加入状況

		自治会・町内会	高齢者団体（老人会等）	P T A	市民活動団体 N P O ・ ボランテ ァ	女性団体（婦人会等）	少年者団体（子供会等）	消防団・自警団等	等） 壮青年者団体（青年団	加入していない	
全体		N= 9,127	85.4%	17.3%	13.6%	8.1%	7.7%	4.8%	3.7%	1.4%	9.8%
つきあいの程度	互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力し合っている人がいる	N= 2,115	90.8%	27.6%	18.0%	14.1%	14.5%	6.8%	6.0%	2.3%	<i>3.9%</i>
	日常的に立ち話をする人がいる	N= 3,237	91.3%	18.5%	14.5%	8.4%	8.2%	5.1%	4.2%	1.5%	<i>4.4%</i>
	あいさつ程度の最小限のつきあいをしている人がいる	N= 2,348	82.3%	<i>8.3%</i>	12.6%	4.1%	2.8%	3.7%	2.0%	0.9%	12.9%
	つきあいをしている人はいない	N= 262	<i>51.5%</i>	<i>2.3%</i>	<i>4.2%</i>	<i>1.5%</i>	<i>0.8%</i>	0.8%	0.0%	0.0%	44.3%

(注) 全体の回答率と比較して5ポイント以上大きい場合は**白抜き**、5ポイント以上小さい場合は**斜体**で示している。

図表IV-4 ボランティアの参加状況

		クル（自然・環境保護） （ゴミ拾いなど含む）	自然・環境保護関連	地域の伝統文化・行事	関連スポーツ・芸術振興	こまごまづくり・まちおこし関連	健康・医療関連	人権・平和関連	観光振興・国際交流	参加していない
全体		N= 9,127	28.7%	25.7%	12.8%	11.0%	9.9%	8.8%	3.5%	56.1%
つきあいの程度	互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力し合っている人がいる	N= 2,115	41.4%	39.7%	20.9%	19.2%	17.1%	15.7%	6.5%	<i>39.9%</i>
	日常的に立ち話をする人がいる	N= 3,237	31.9%	29.2%	14.6%	11.8%	10.7%	9.7%	3.6%	<i>50.5%</i>
	あいさつ程度の最小限のつきあいをしているひとがいる	N= 2,348	<i>20.7%</i>	<i>15.8%</i>	<i>6.7%</i>	<i>5.0%</i>	5.0%	<i>3.4%</i>	1.7%	66.8%
	つきあいをしている人はいない	N= 262	<i>2.7%</i>	<i>3.8%</i>	<i>0.4%</i>	<i>1.5%</i>	<i>0.4%</i>	<i>0.8%</i>	0.4%	93.9%

近所づきあいの薄い世帯はボランティアへの参加率が低い。

(注) 全体の回答率と比較して5ポイント以上大きい場合は**白抜き**、5ポイント以上小さい場合は**斜体**で示している。

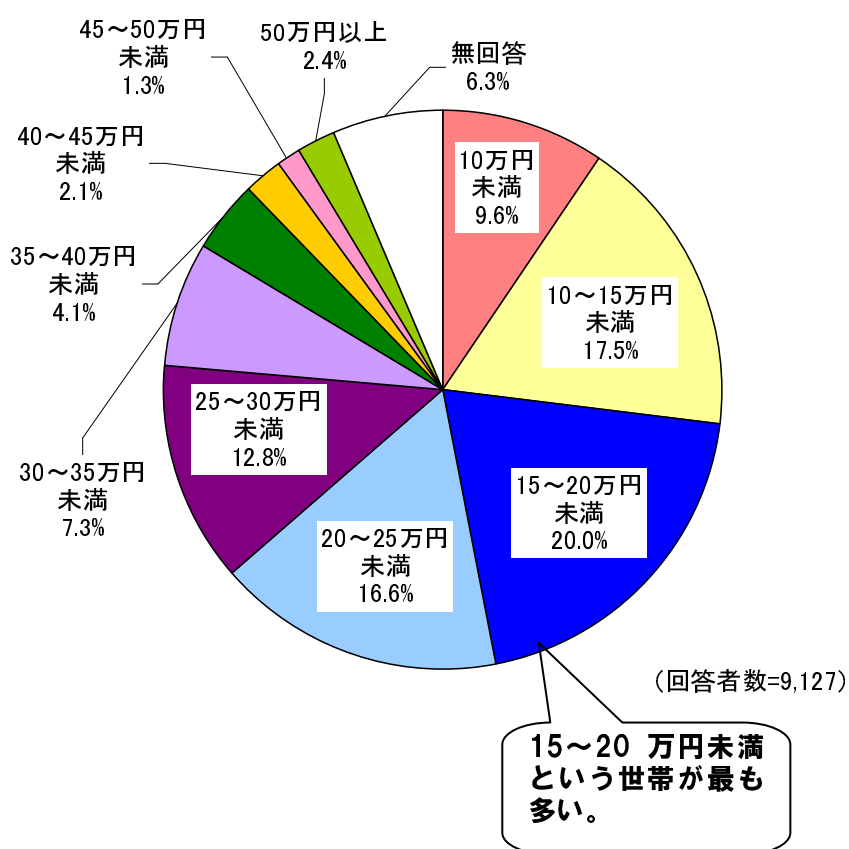
V. 家計の状況

1. 支出

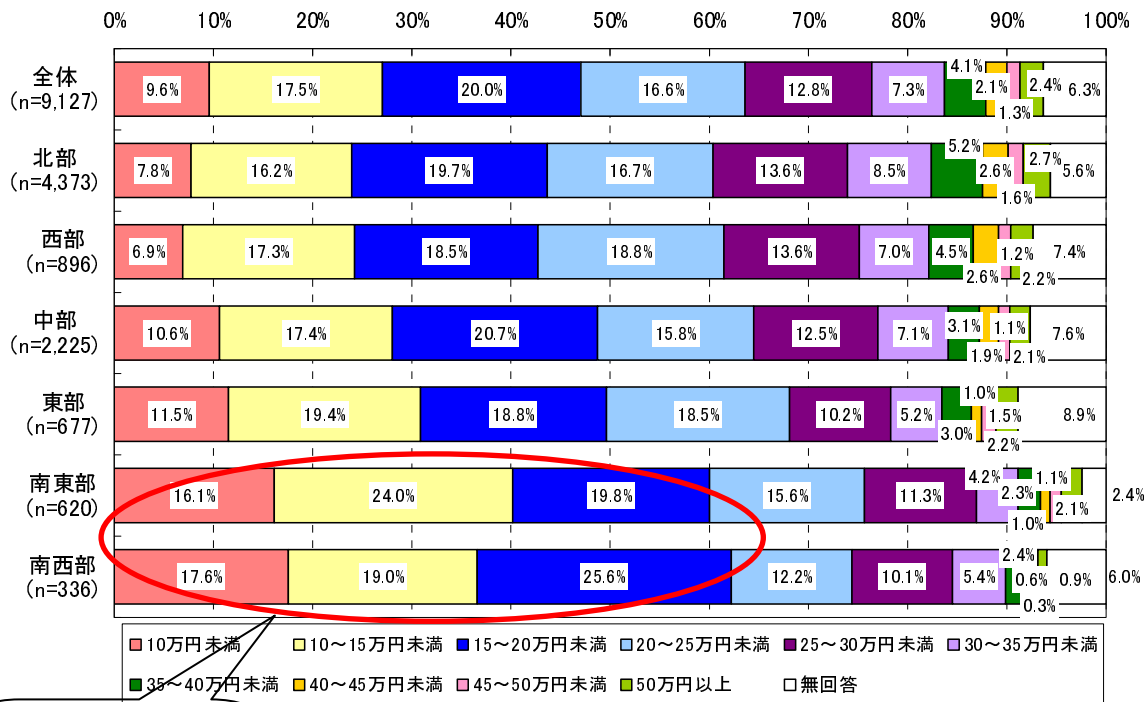
- ・ 回答者全体で見ると、最も多いのは「15～20万円未満」、次に「10～15万円未満」。
- ・ 南東部や南西部では、一ヶ月当たりの支出額が20万円未満の範囲に収まる世帯の比率が他地域と比べてやや高い。
- ・ 世帯主が30歳未満の世帯では、支出額の低さが他の年代と比べて顕著。

図表V-1 世帯全体の家計支出

【全体】

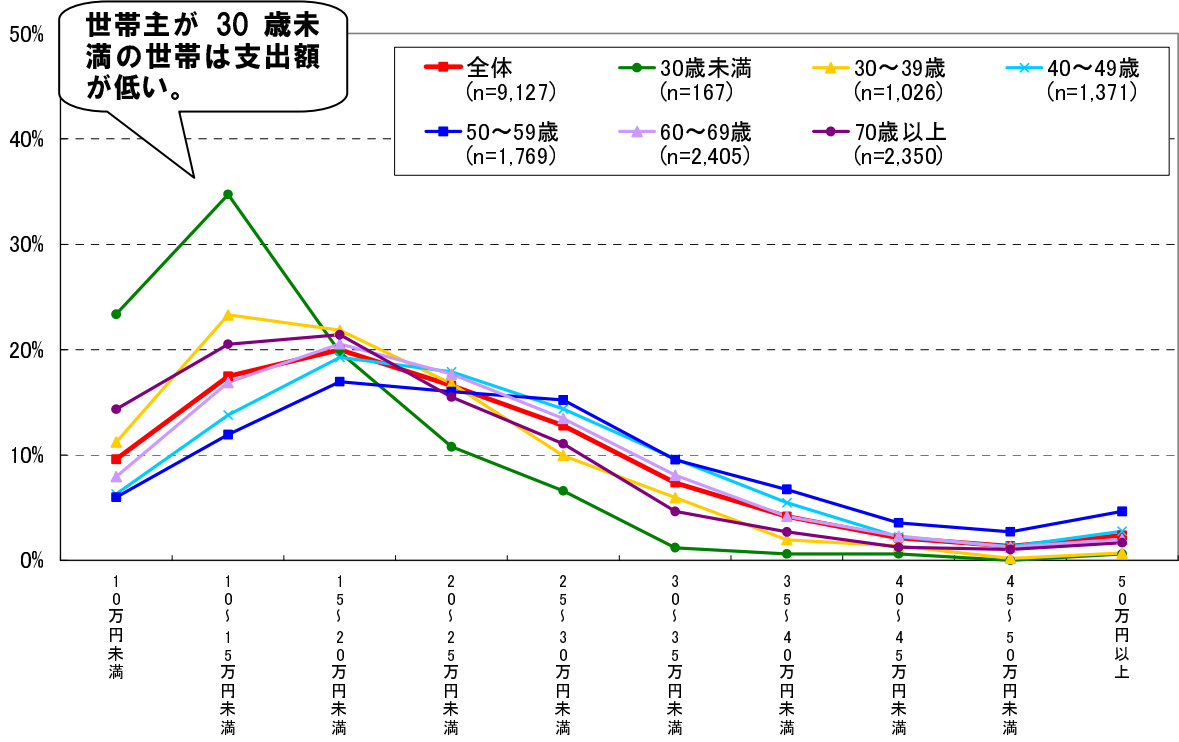


【地域別】



南東部、南西部で20万円未満の比率が高い。

【世帯主年齢別】

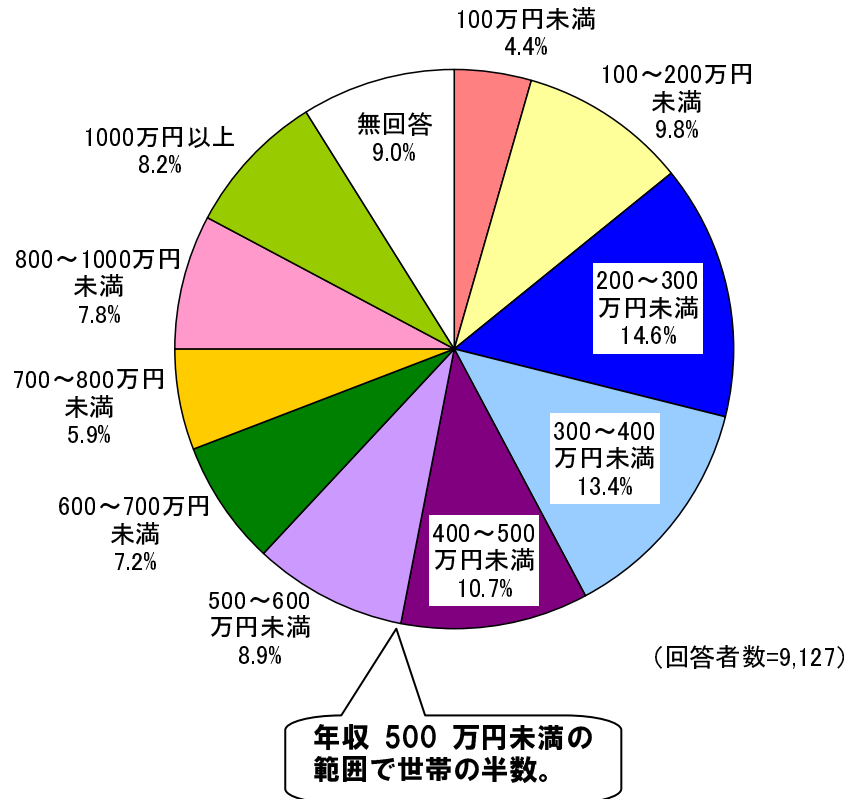


2. 収入

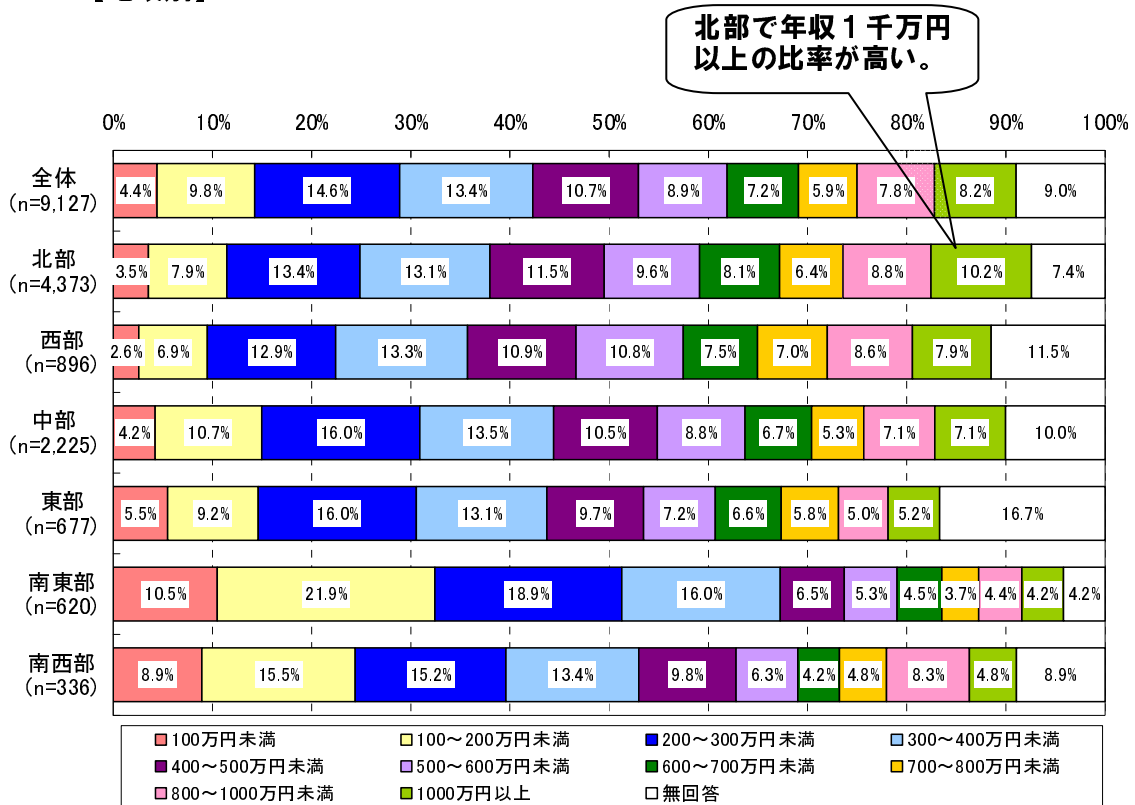
- 全体として、年間世帯収入が 500 万円未満の範囲で回答世帯の半数以上を占めている。
- 収入が「1000 万円以上」という回答の比率は、北部において全体と比べて高くなっている。
- 50 歳代までは世帯主の年齢が上がるほど収入が増えていく傾向がうかがえる。

図表V-2 世帯全体の収入

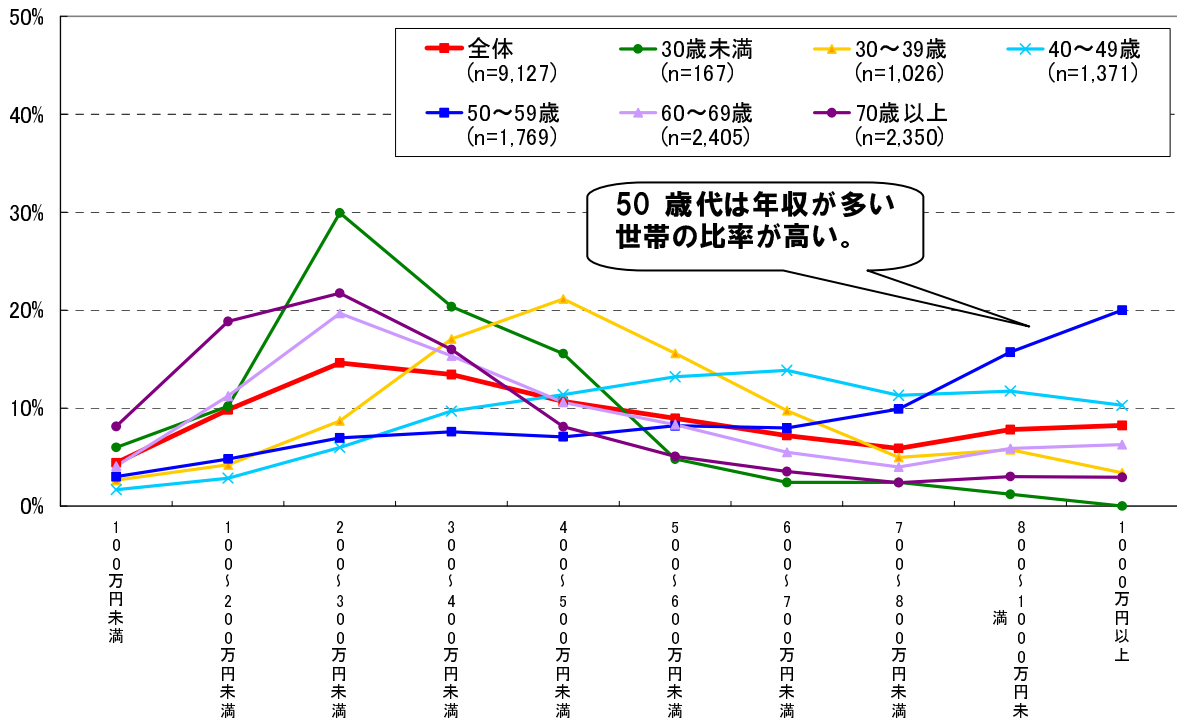
【全体】



【地域別】



【世帯主年齢別】

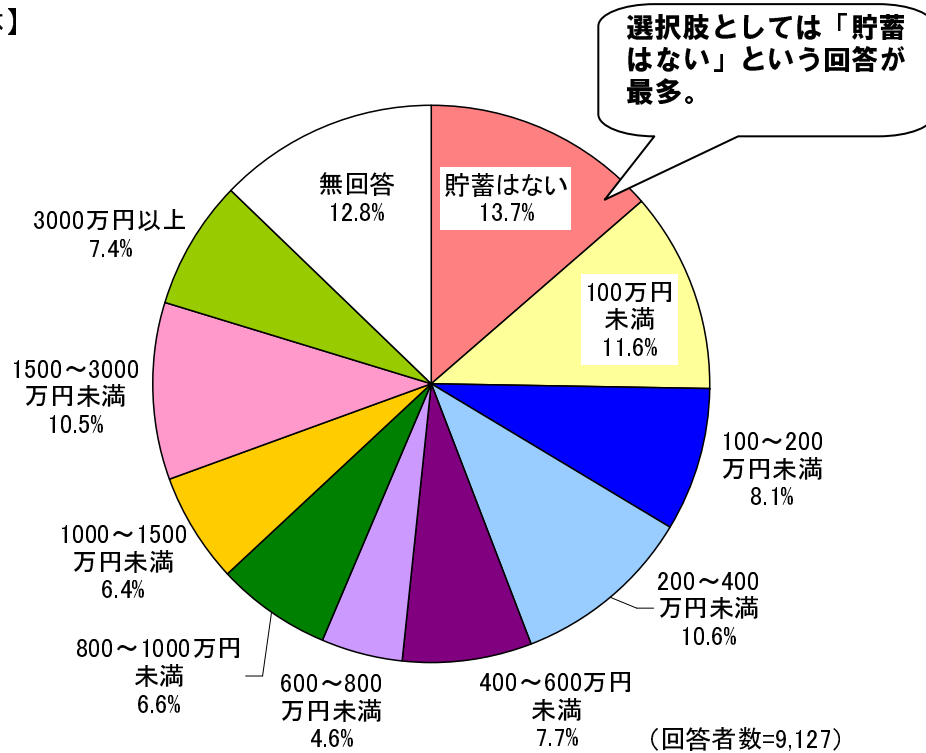


3. 貯蓄

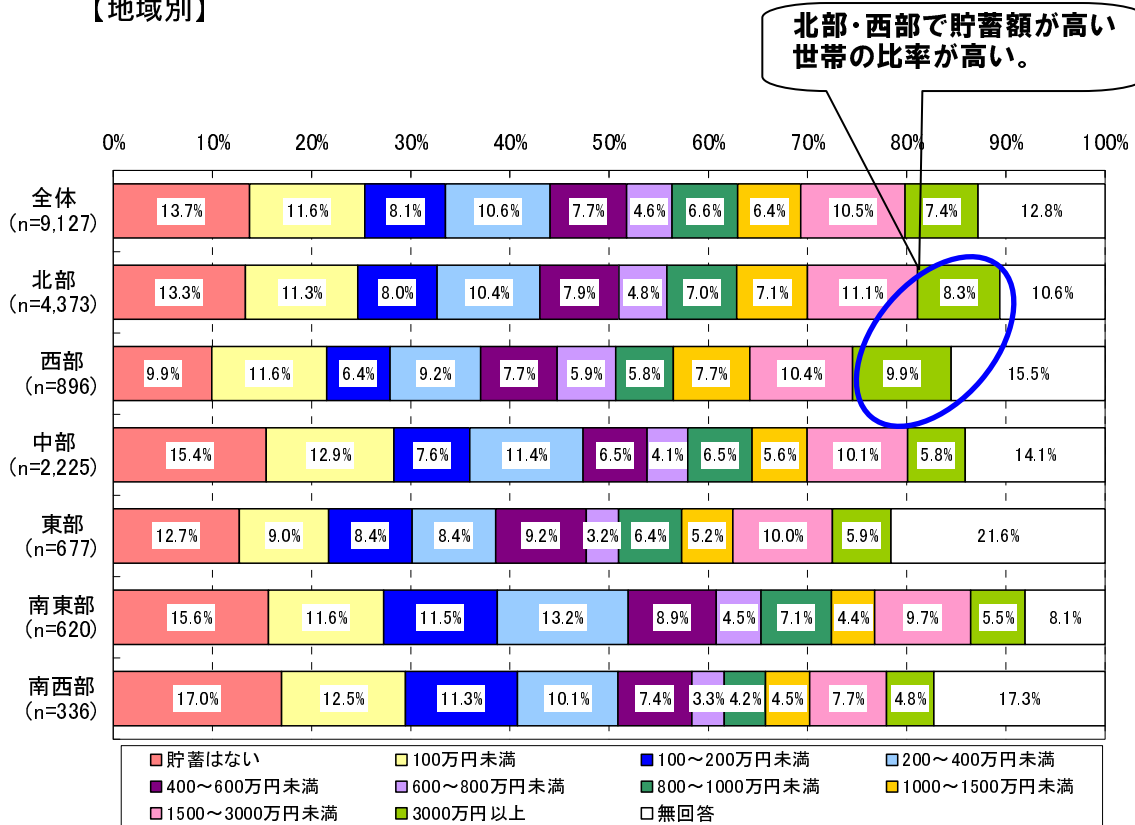
- 選択肢の回答としては「貯蓄はない」という回答が最も多く、貯蓄が 600 万円未満の範囲で回答世帯の半数以上を占めている一方で、1000 万円以上の貯蓄があると回答した世帯も4分の1近くいる。
- 北部と西部において「3000 万円以上」という回答の比率が全体に比べて高い。
- 年代が上がるほど貯蓄額が増えている傾向が顕著。

図表V-3 世帯全体の貯蓄

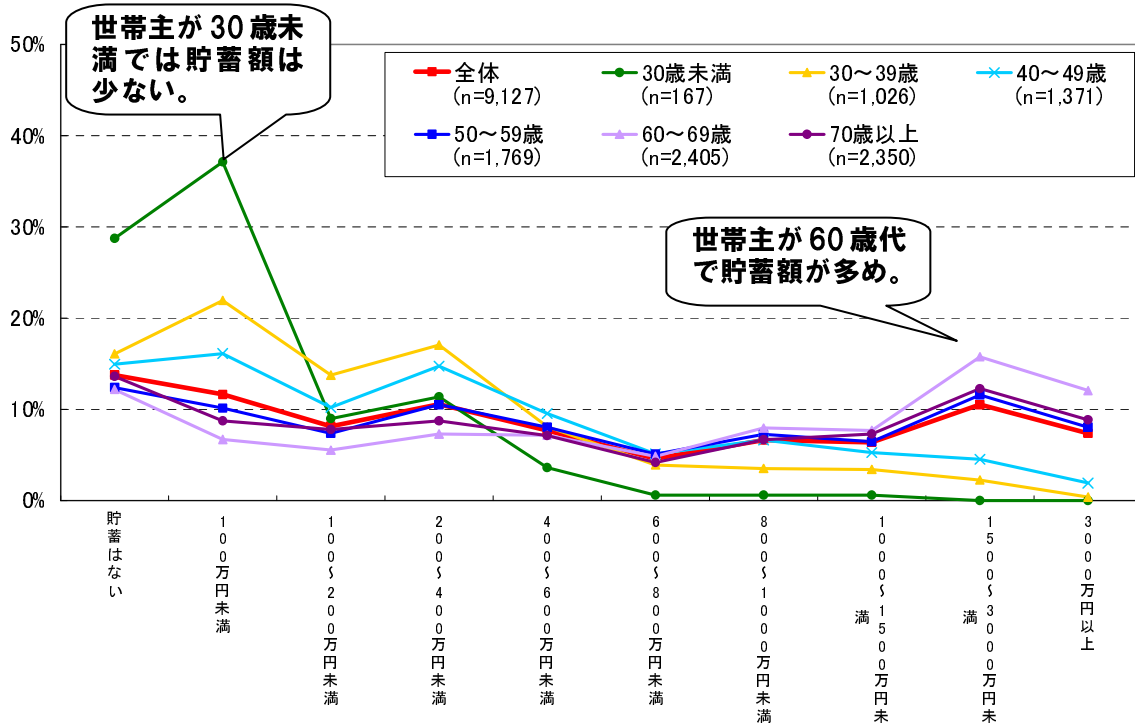
【全体】



【地域別】



【世帯主年齢別】

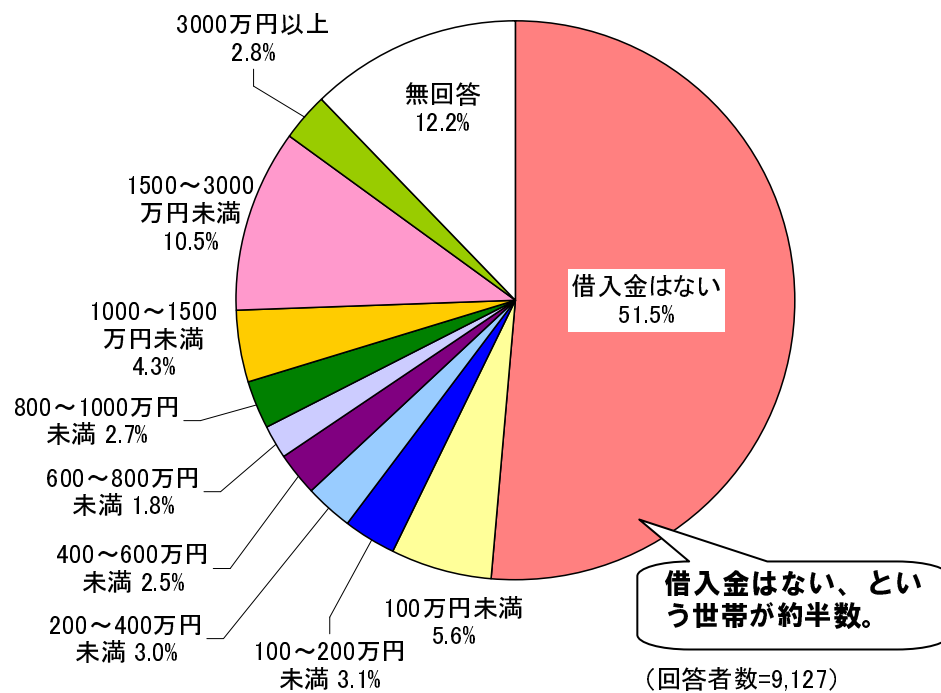


4. 借入金

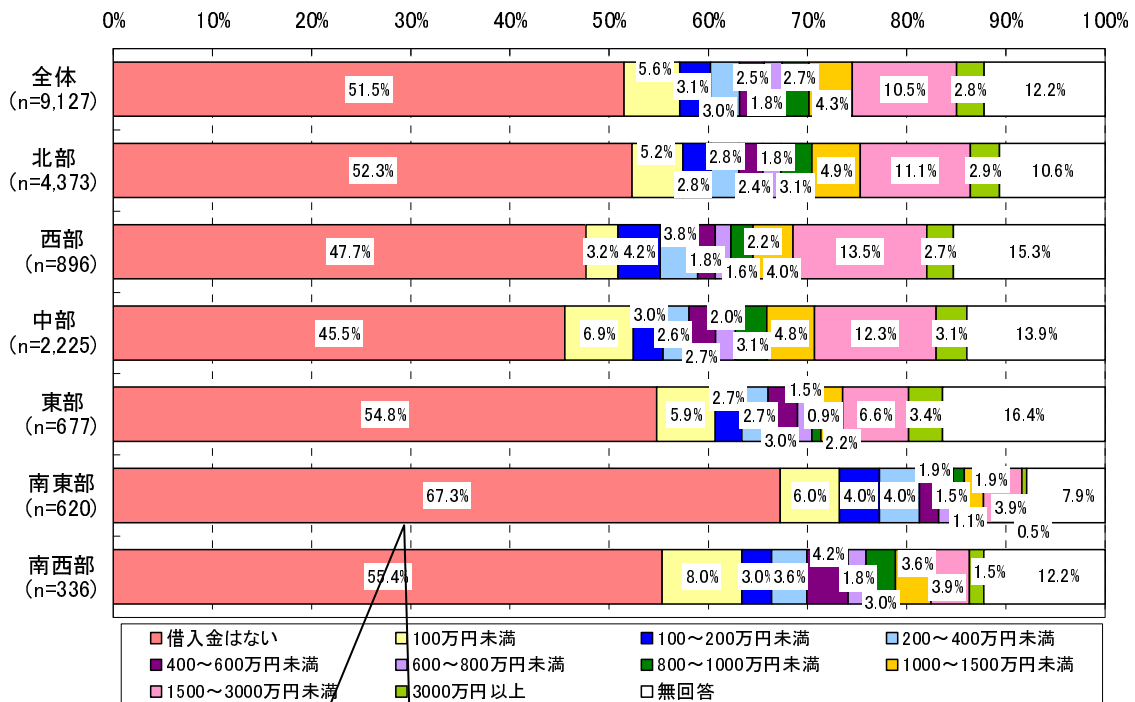
- ・「借入金はない」という回答が全体の約半数。
- ・南東部では「借入金はない」という世帯の比率が特に高い。
- ・60歳代と70歳代で「借入金はない」という回答の比率が特に高い一方で、30歳代と40歳代で「1500～3000万円未満」という回答の比率が他の属性に比べて特に高い。

図表V-4 世帯全体の借入金の内訳

【全体】

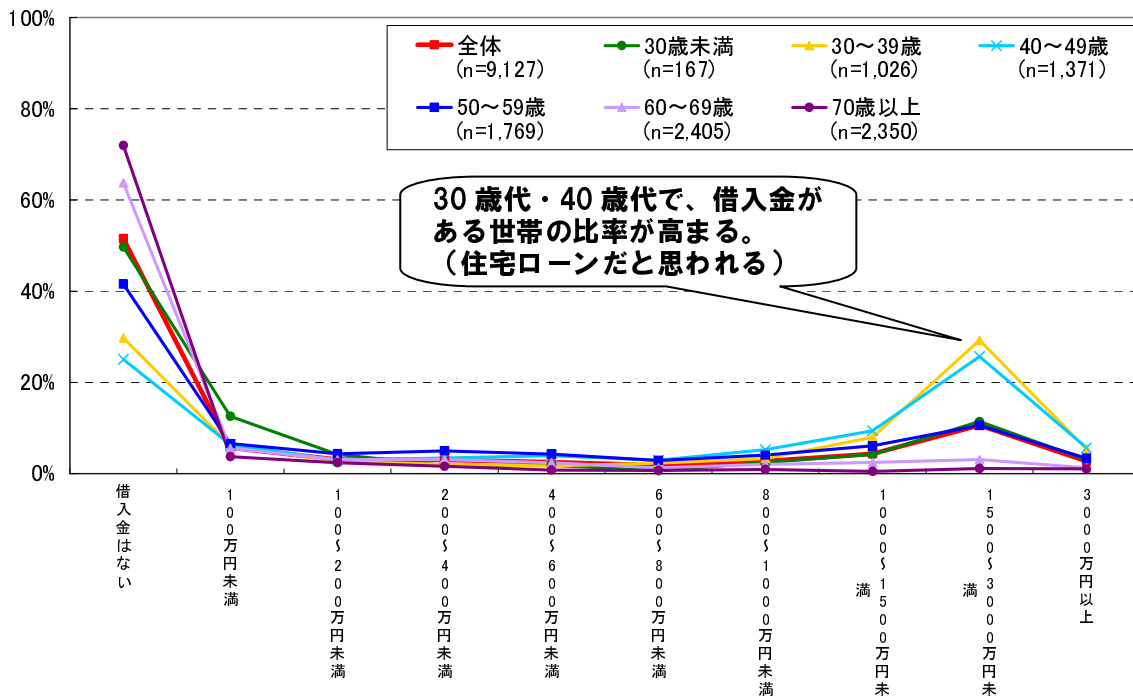


【地域別】



南東部で借入金がない世帯の比率が特に高い。

【世帯主年齢別】



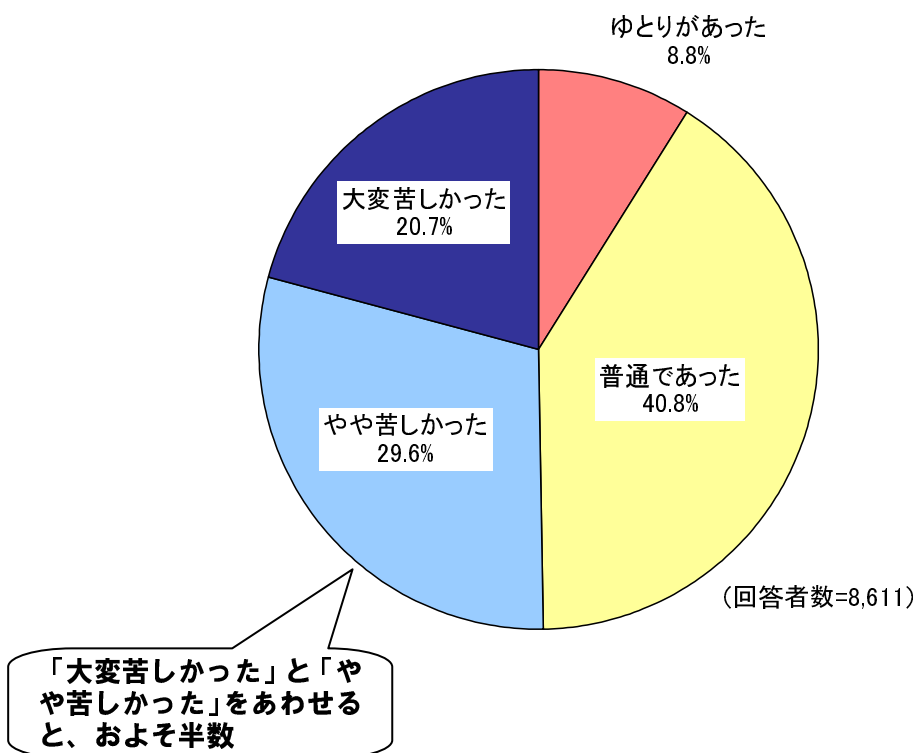
VI. 家計のゆとり・苦しきに関する状況

1. 総合的な家計の状況(問 26)

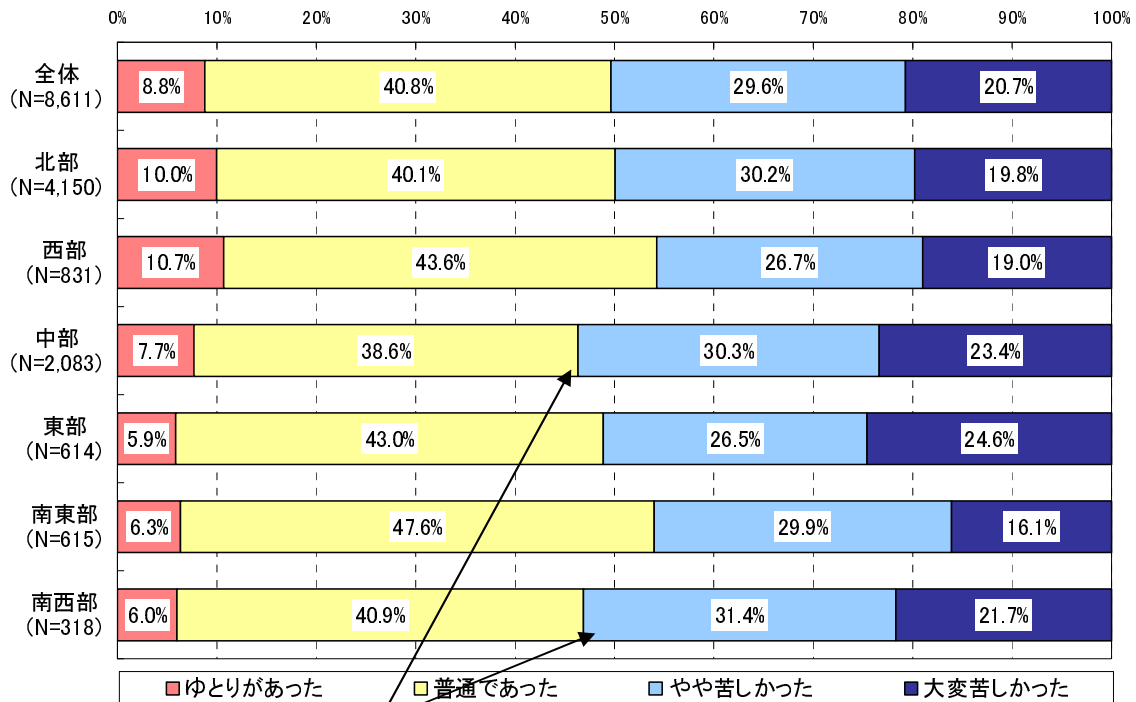
- ・ 家計の状況は「大変苦しかった」と「やや苦しかった」と回答した世帯をあわせると、およそ半数を占める。
- ・ 北部と西部で「ゆとりがあった」という回答の比率が全体と比べてやや高い。
- ・ 「大変苦しかった」という回答の比率は 40 歳代で高く、70 歳代で低い。

図表VI-1 総合的な家計の状況

【全体】

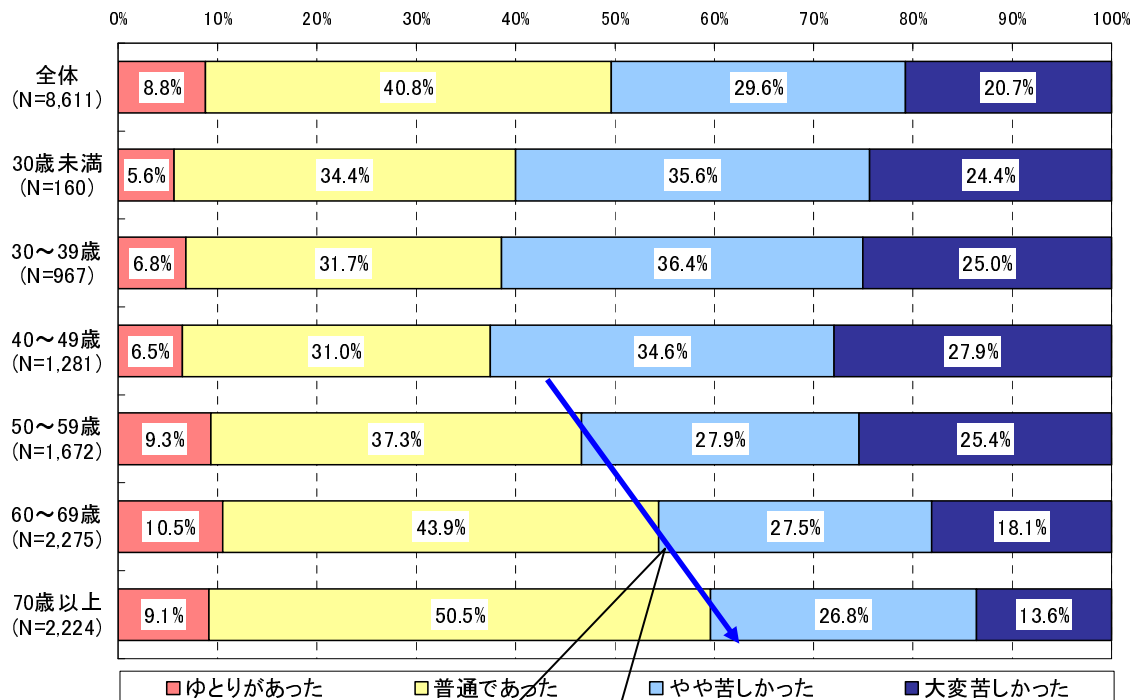


【地域別】



中部と南西部で「苦しかった」世帯の比率が高い。

【世帯主年齢別】

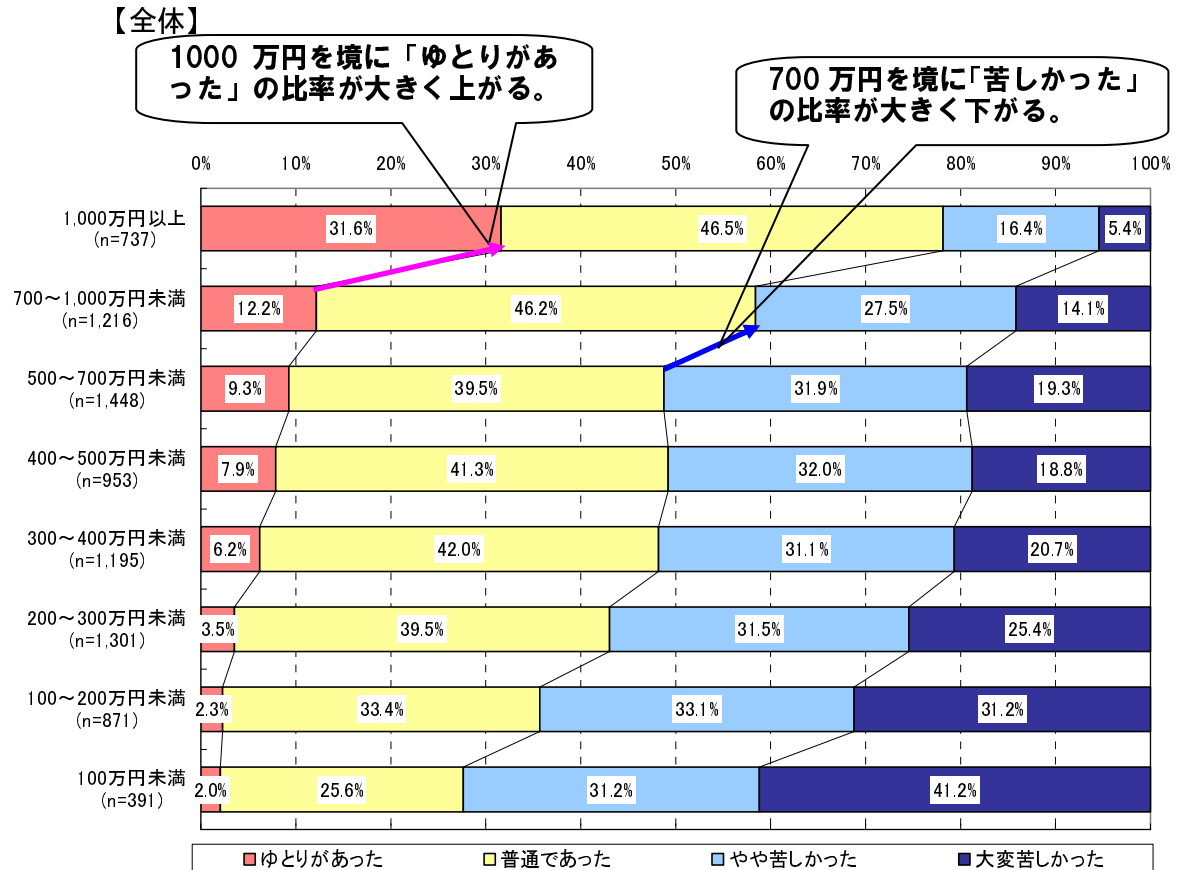


50歳代から、世帯主の年齢が上がるにつれ、「苦しかった」という比率が下がる。

2. 家計の状況と収入との関係

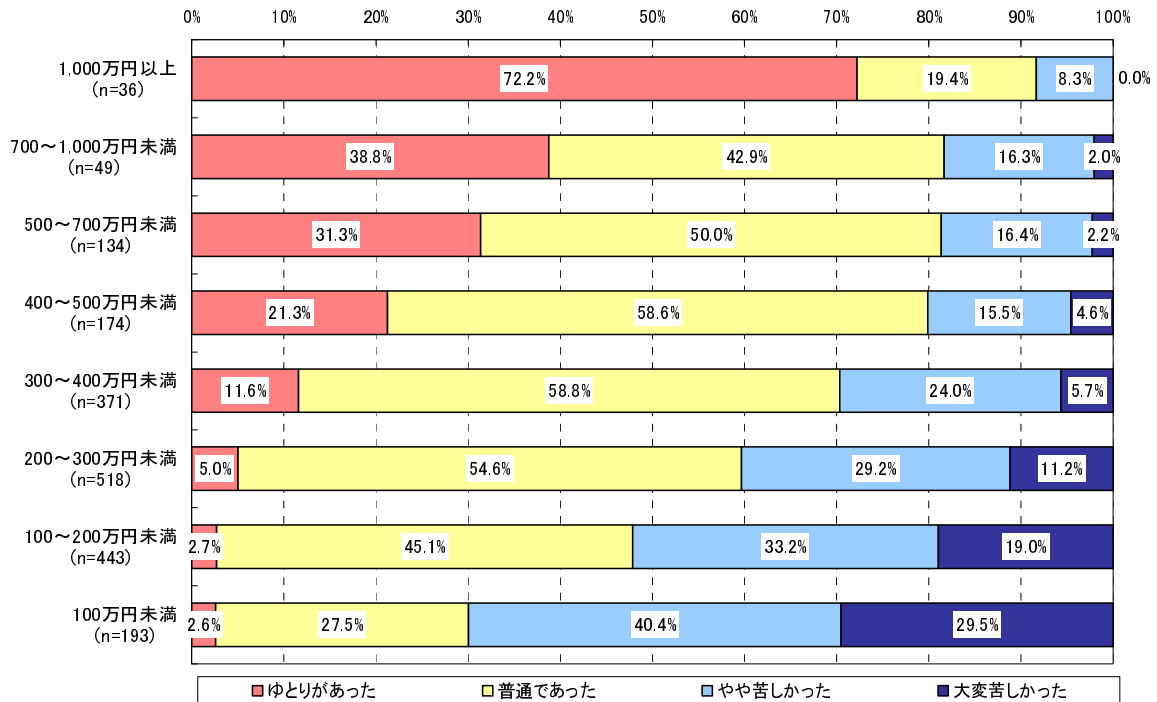
- ・ 年間収入 100 万円未満の世帯では、7 割以上が「大変苦しかった」または「やや苦しかった」と回答。
- ・ 年間収入 700 万円を超えると「苦しい」の比率が下がる。
- ・ 同じレベルの年収でも、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯のほうが、それ以外の世帯よりも「ゆとりがあった」「普通であった」という回答の比率が高い。

図表VI-2 年間収入別にみた家計の状況



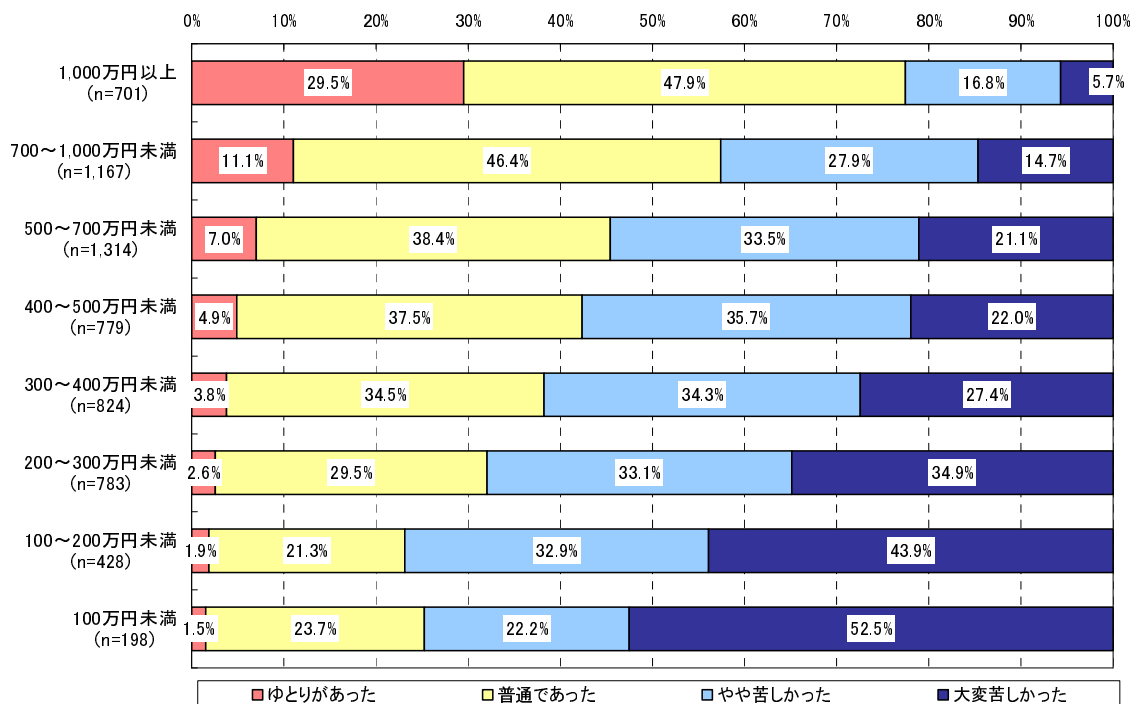
(注) 四捨五入の関係上、表記している比率の合計が 100%にならないことがある。(以下同様)

【高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯】



同じくらいの年収でも、「高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯」のほうが「余裕があった」「普通であった」という回答の比率が高い。

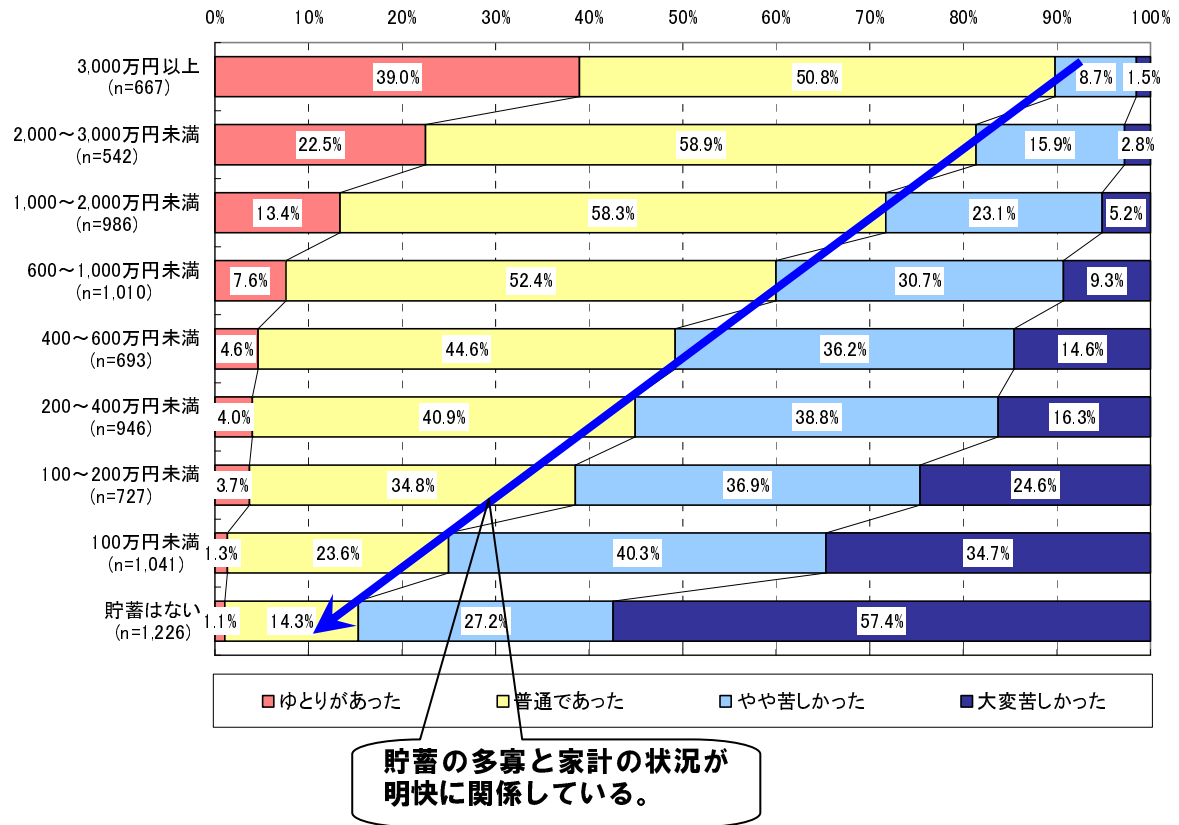
【高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯以外】



3. 家計の状況と貯蓄との関係(問 24)

- 全体を通じて、貯蓄が多い世帯ほど、生活にゆとりがあったことがわかる。
- 「貯蓄はない」と回答した世帯の8割以上が家計が苦しかったと回答。
- ゆとりがあったと回答した世帯の割合が全体の1割を超えるのは「1,000～2,000万円未満」以上の階層。

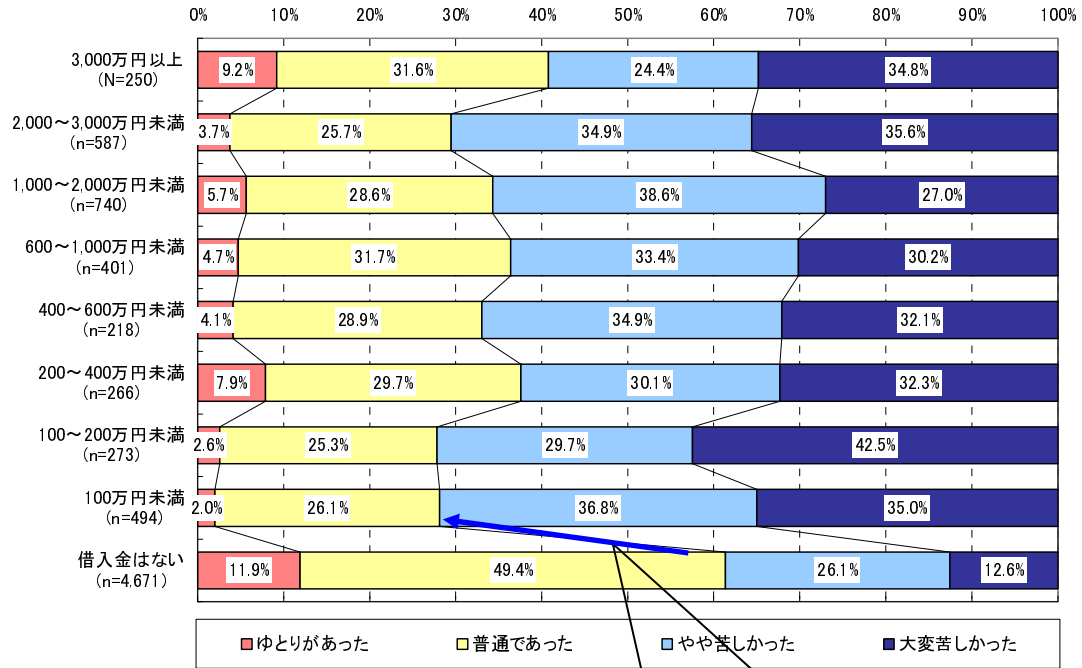
図表VI-3 貯蓄階層別にみた家計の状況



4. 家計の状況と借入金との関係(問 25)

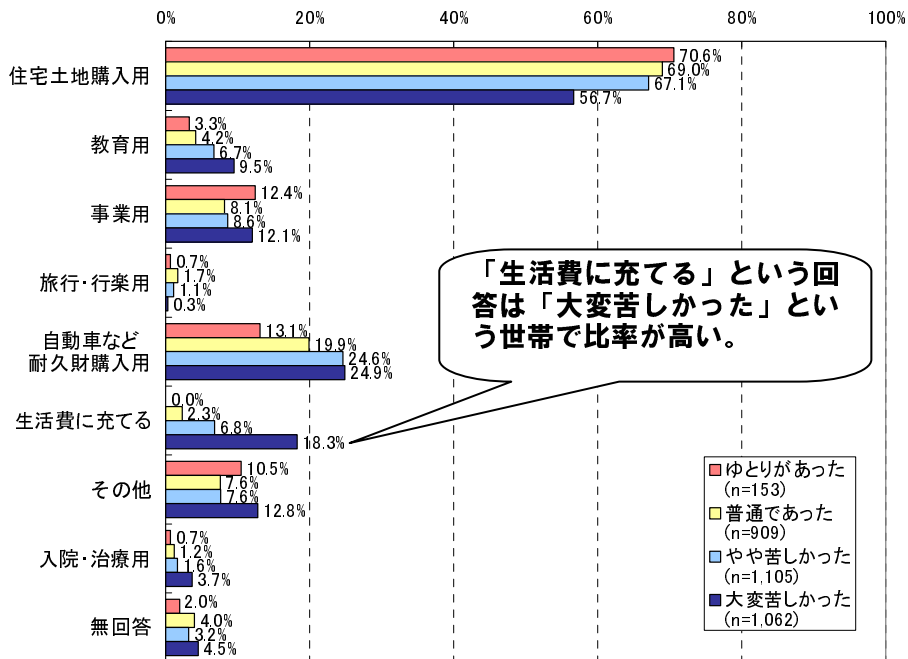
- ・ 家計の状況と借入金との関係は収入や貯蓄ほど金額に比例しない。
- ・ 借入金を「生活費に充てる」と回答している世帯では、家計の状況は苦しいと感じている。

図表VI-4 借入金の金額別にみた家計の状況



借入金がない世帯と、少額でもある世帯とで差が顕著。

図表VI-5 借入を行った目的(複数回答)



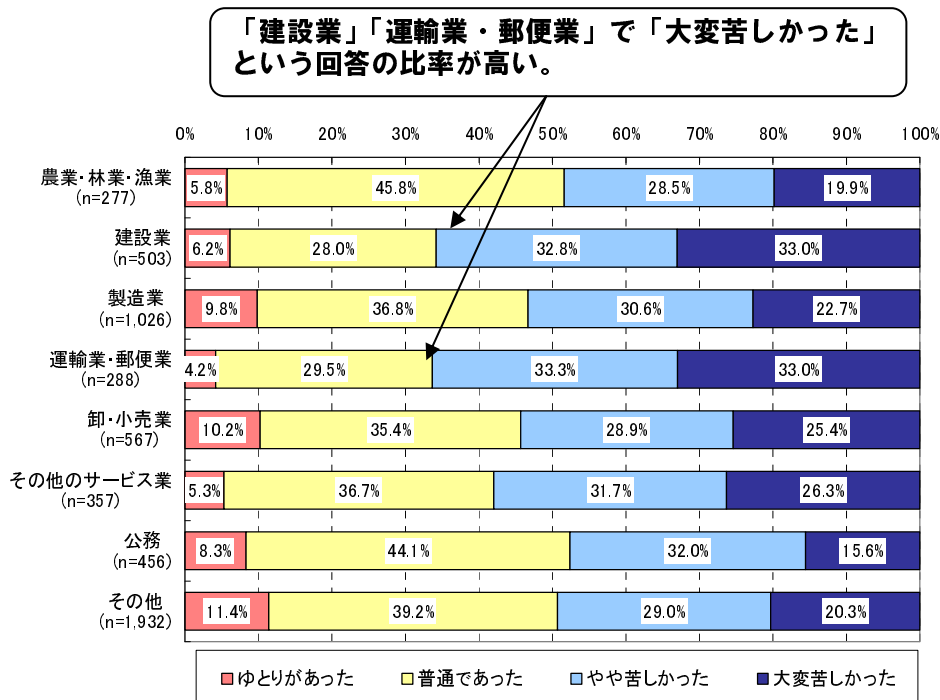
「生活費に充てる」という回答は「大変苦しかった」という世帯で比率が高い。

(注) 「ゆとりがあった」など家計の状況ごとに借入金を行っている世帯の数を分母に取り、それぞれの目的を分子にとって比率を算出している。

5. 家計の状況と就業状況との関係

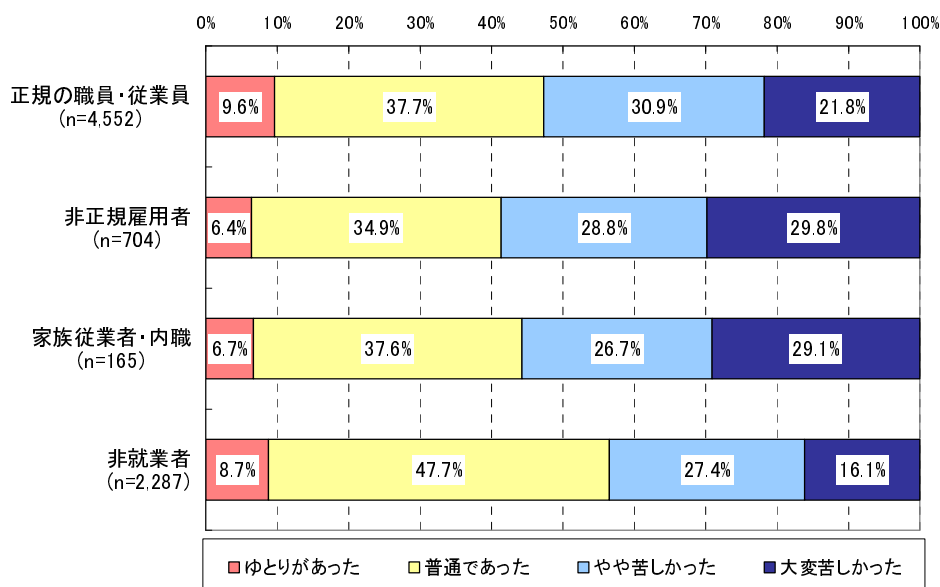
- 世帯主の就労先が「建設業」「運輸業・郵便業」である世帯では、「大変苦しかった」という回答の比率が高い。
- 世帯主が非就業者でも家計は「普通であった」という回答の比率が高いのは、年金受給者であるためと考えられる。

図表VI-6 世帯主の就業先の産業別にみた家計の状況



(注) 構成比が全体で5%未満の産業については「その他」に集約している。

図表VI-7 世帯主の就業形態別にみた家計の状況



VII. 「5つの構想案」に関連するデータ

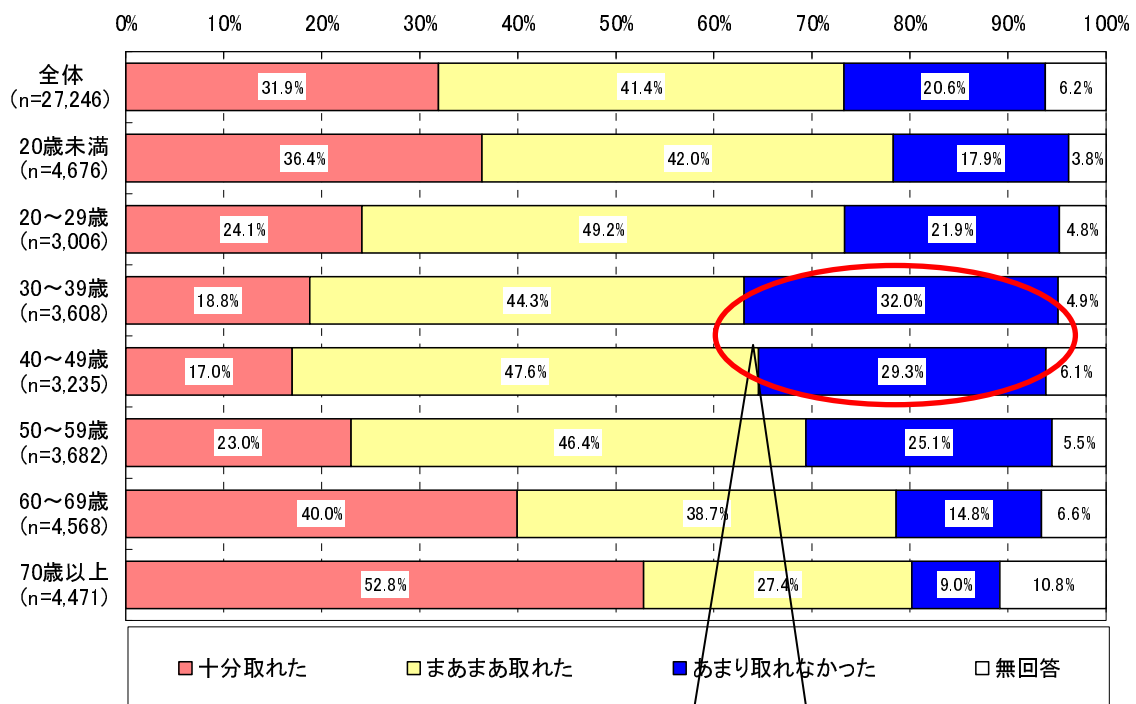
1. 健やかに生きる

(1) 余暇の取得状況

- ・ 全体では7割以上の世帯構成員が「十分」または「まあまあ」余暇が取れたと回答。
- ・ 30歳代、40歳代では「あまり取れなかった」という回答が多い。

図表VII-1 年齢別の余暇取得状況

【回答者年齢別】



30・40歳代で「あまり取れなかった」という比率が高い。

(注) 対象者数が調査票回収数を超えているのは、回答ごとの世帯構成員(世帯主、配偶者、父母、子)すべての数を合算しているため。

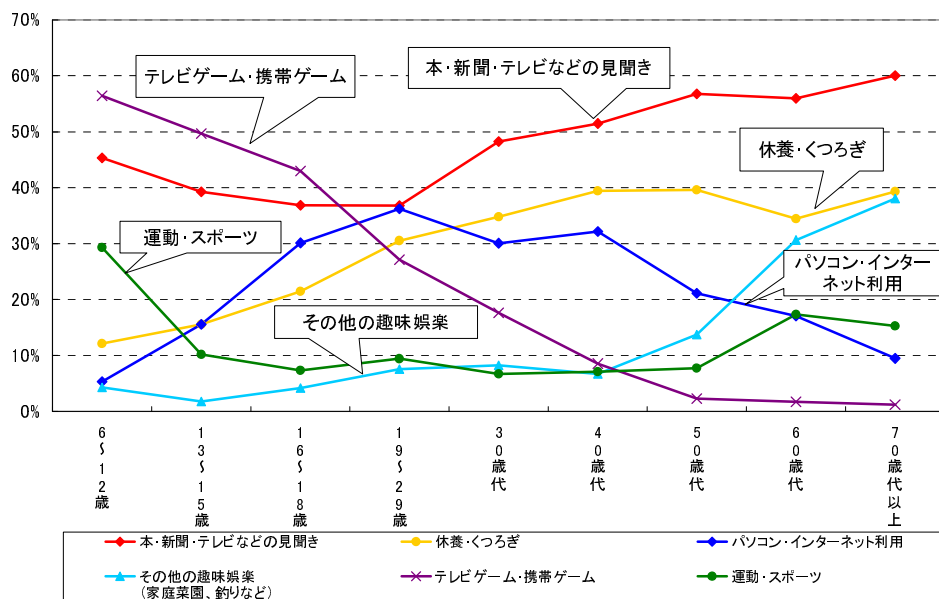
(2) 余暇・自由時間の過ごし方

① 男性

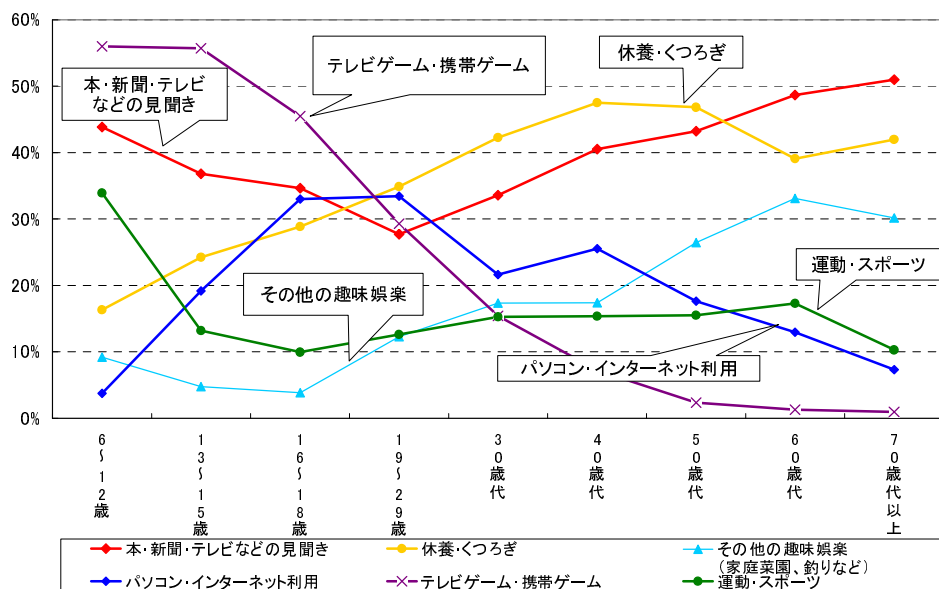
- ・ 余暇・自由時間の過ごし方として、最も多いのは「本・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどの見聞き」。
- ・ 男性においては、若い年代においては、「テレビゲーム・携帯ゲーム」という回答の比率が高いが、それ以外の年代では「本・新聞・テレビなどの見聞き」という回答の比率が高い。
- ・ 男性に特徴的なのは「パソコン・インターネット利用」や「運動・スポーツ」といった項目の比率の高さ。

図表VII-2 余暇・自由時間の過ごし方(性・年代別・上位項目)

【男性・平日】



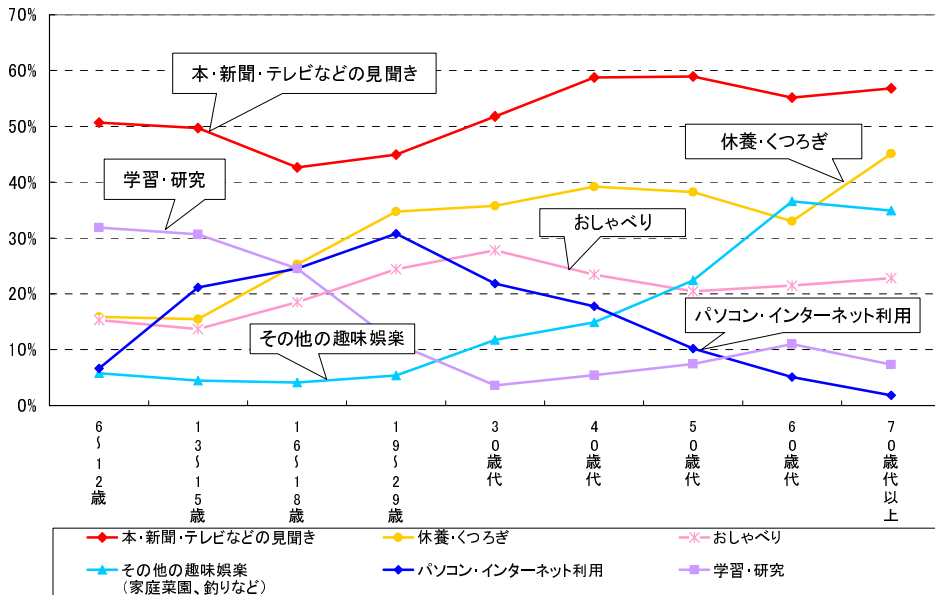
【男性・休日】



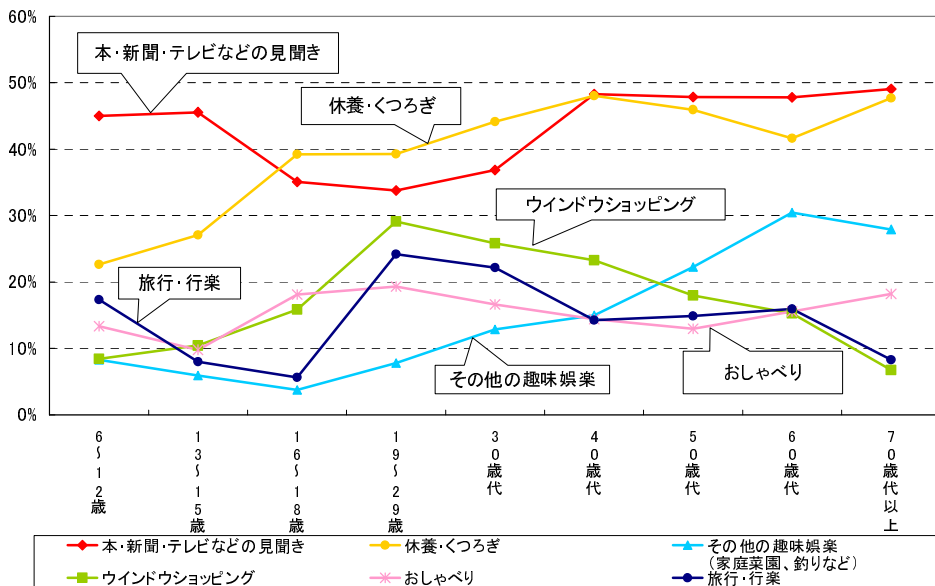
② 女性

- ・ 余暇・自由時間の過ごし方として、最も多いのは「本・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどの見聞き」で男性と共通している。
- ・ 女性に特徴的なのは「おしゃべり」や「ウィンドウショッピング」といった項目の比率の高さ。

【女性・平日】



【女性・休日】

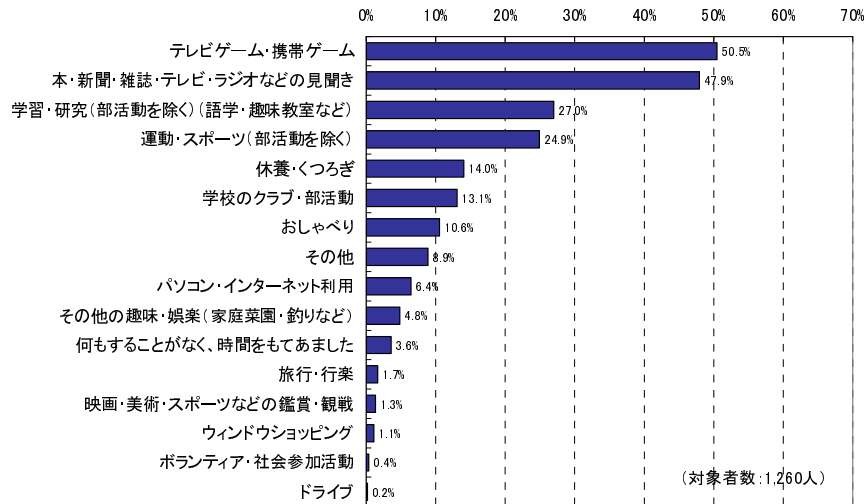


③ 子ども

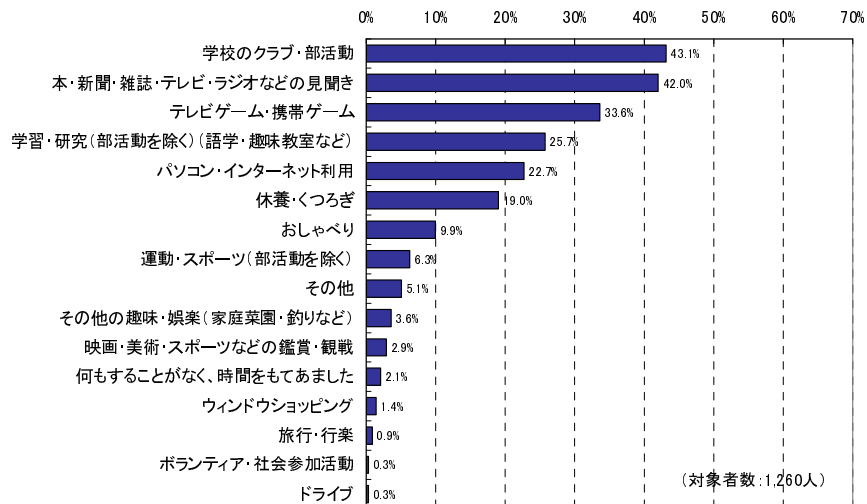
- ・「テレビゲーム・携帯ゲーム」、「本・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどの見聞き」といった回答が多い。
- ・7-12歳では「運動・スポーツ(部活動を除く)」という回答が比較的多いのに対し、13-18歳では「学校のクラブ・部活動」という回答が多い。

図表VII-3 余暇・自由時間の過ごし方(7-18歳)(複数回答)

【7-12歳(平日)】



【13-18歳(平日)】



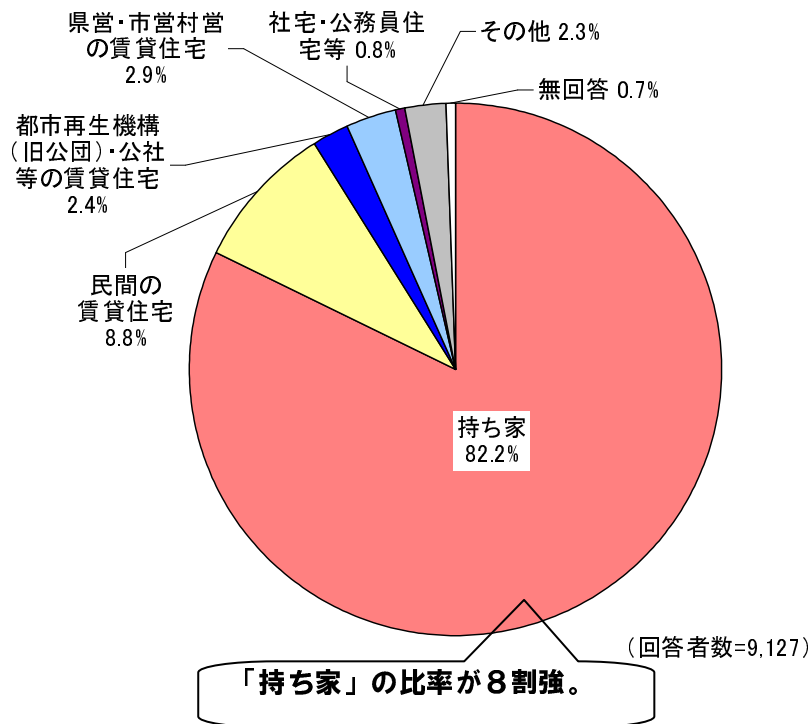
2. 奈良に暮らす

(1) 住まいの状況(問2)

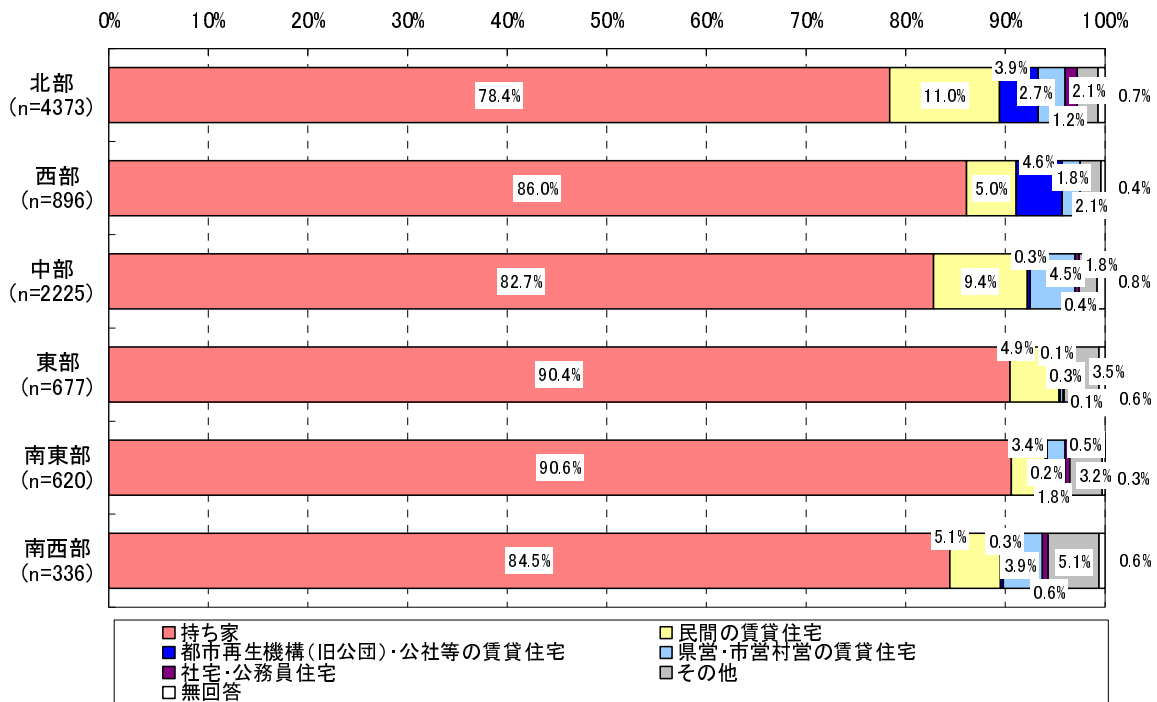
- ・ 県全体では、持ち家が 82.2%と最も多い。
- ・ 地域別では、特に東部、南東部の持ち家率が高い。
- ・ 年齢が上昇するにつれて、持ち家の比率が高くなり、40 歳代以降の世帯では 8 割となる。

図表VII-4 住まいの状況

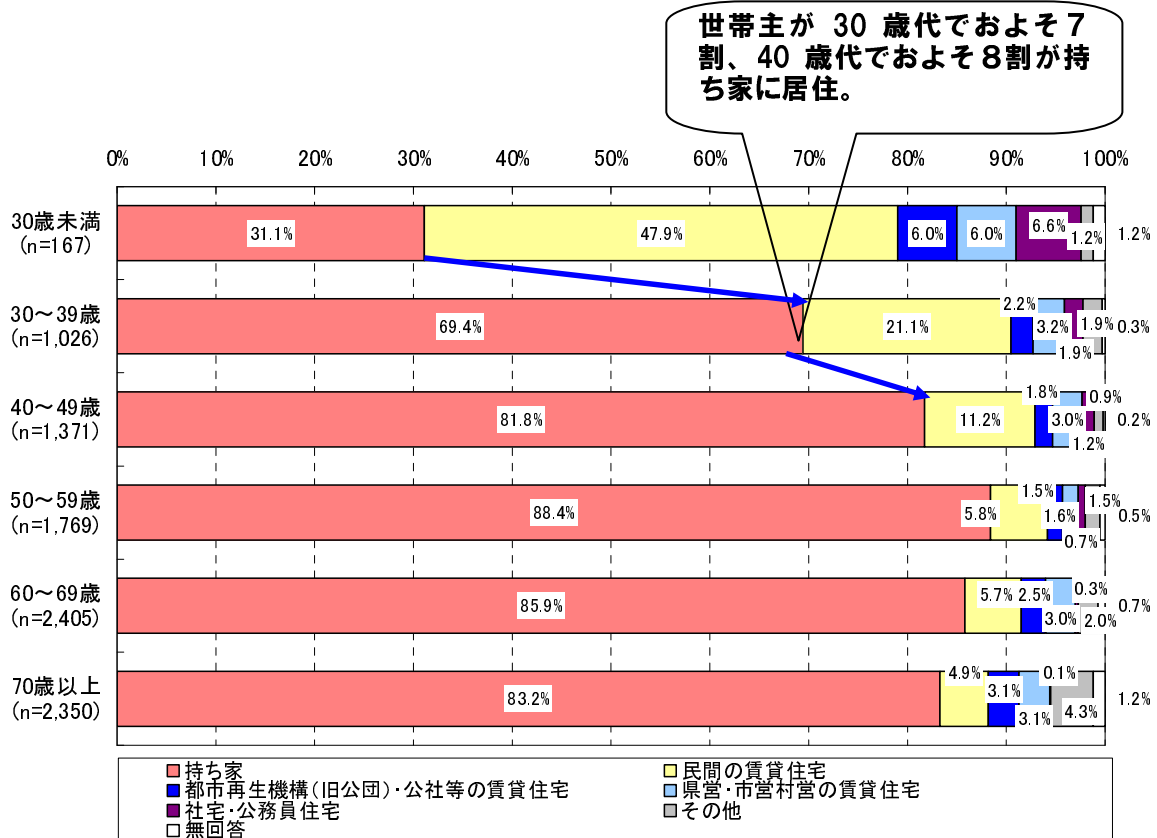
【全体】



【地域別】



【世帯主年齢別】

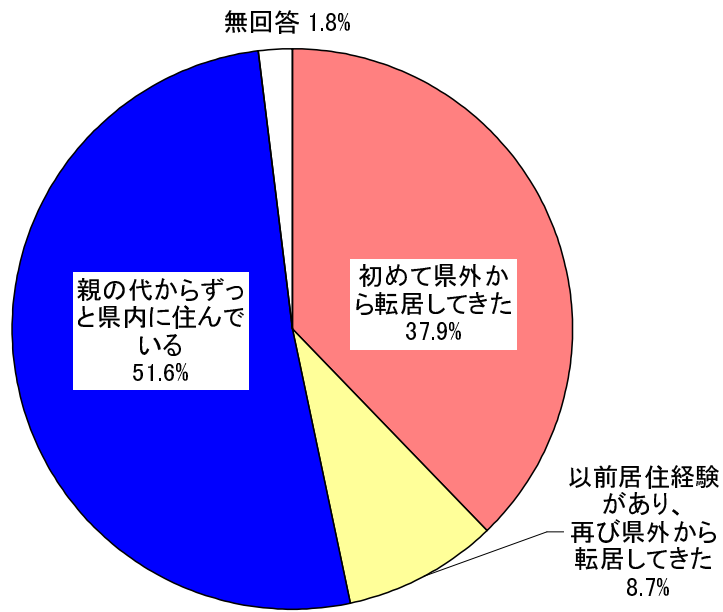


(2) 世帯主の県外からの転居経験の有無(問 3-1)

- ・ 県全体では「親の代からずっと県内に住んでいる」世帯が多い。
- ・ 西部や北部では「初めて県外から転居してきた」という世帯が多い一方、東部・南東部・南西部では「親の代からずっと県内に住んでいる」という世帯が多い。

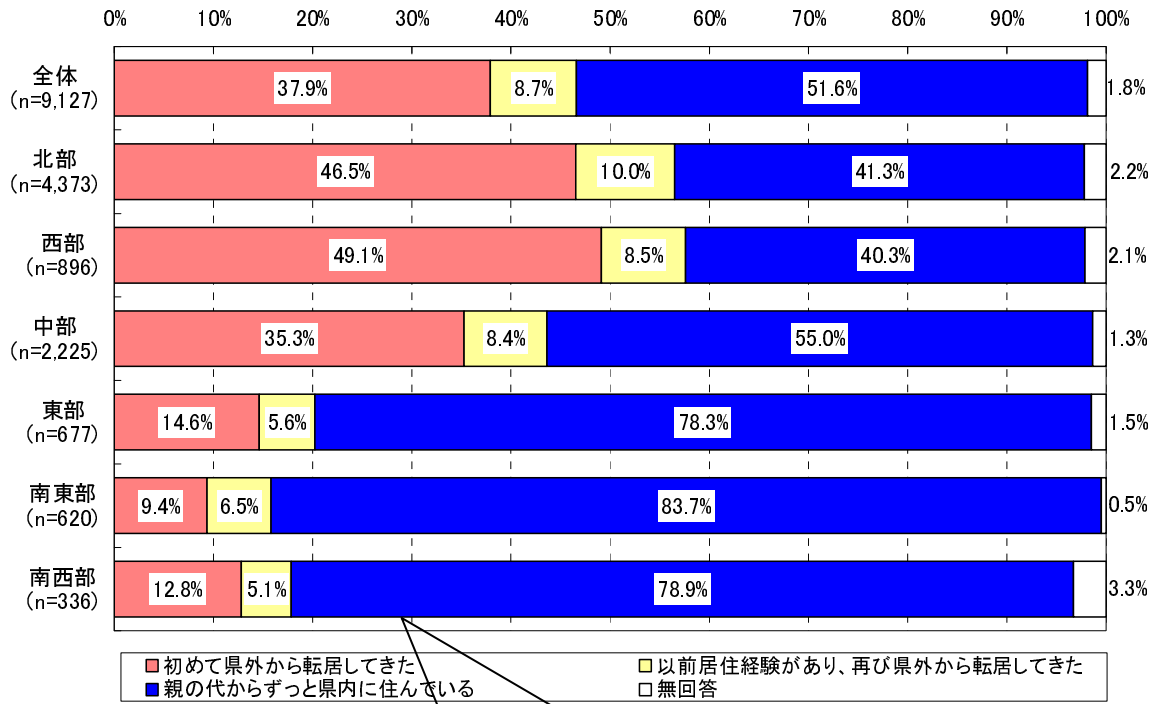
図表VII-5 世帯主の県外からの転居経験の有無

【全体】



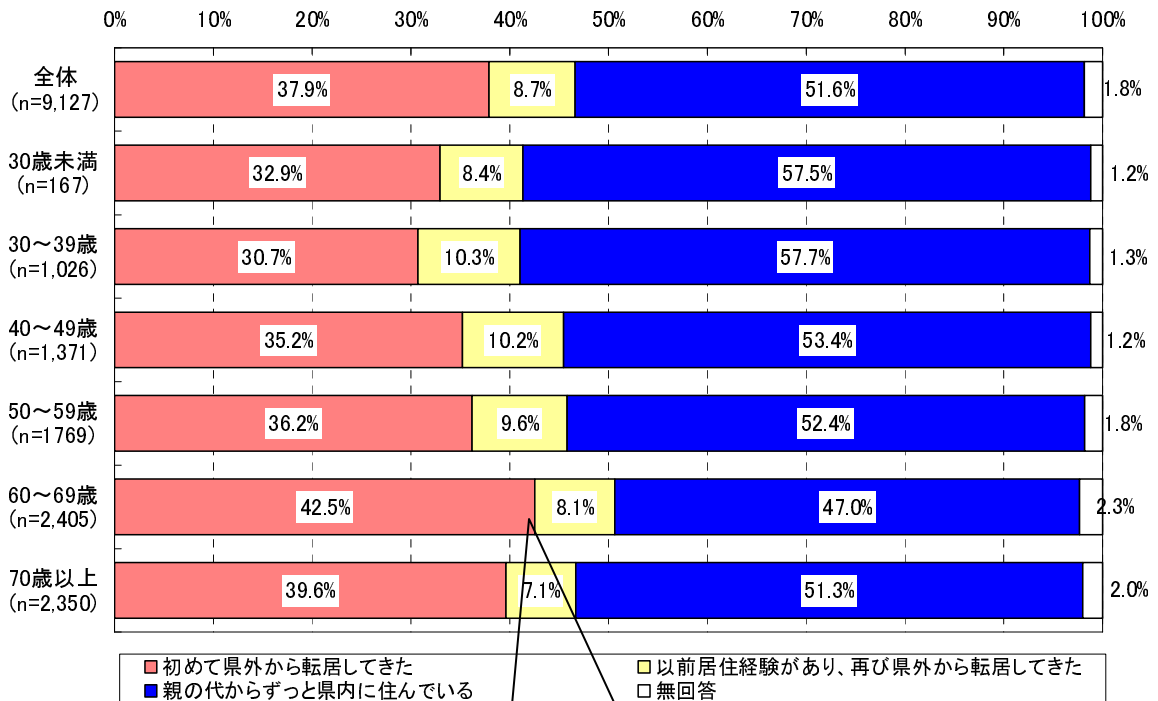
(回答者数=9,127)

【地域別】



東部・南東部・南西部で「親の代からずっと県内に住んでいる」という世帯が多い。

【世帯主年齢別】



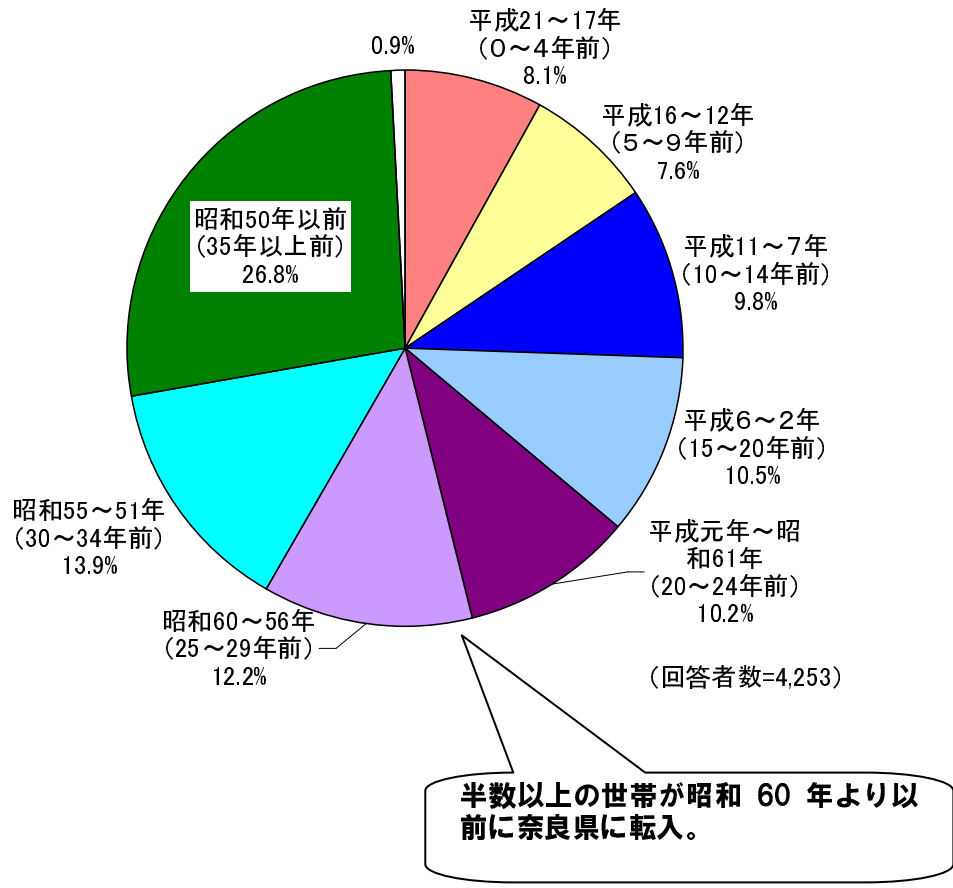
60歳代で「初めに県外から転居してきた」という比率が高い。

(3) 世帯主が奈良に住み始めた時期(問 3-2)

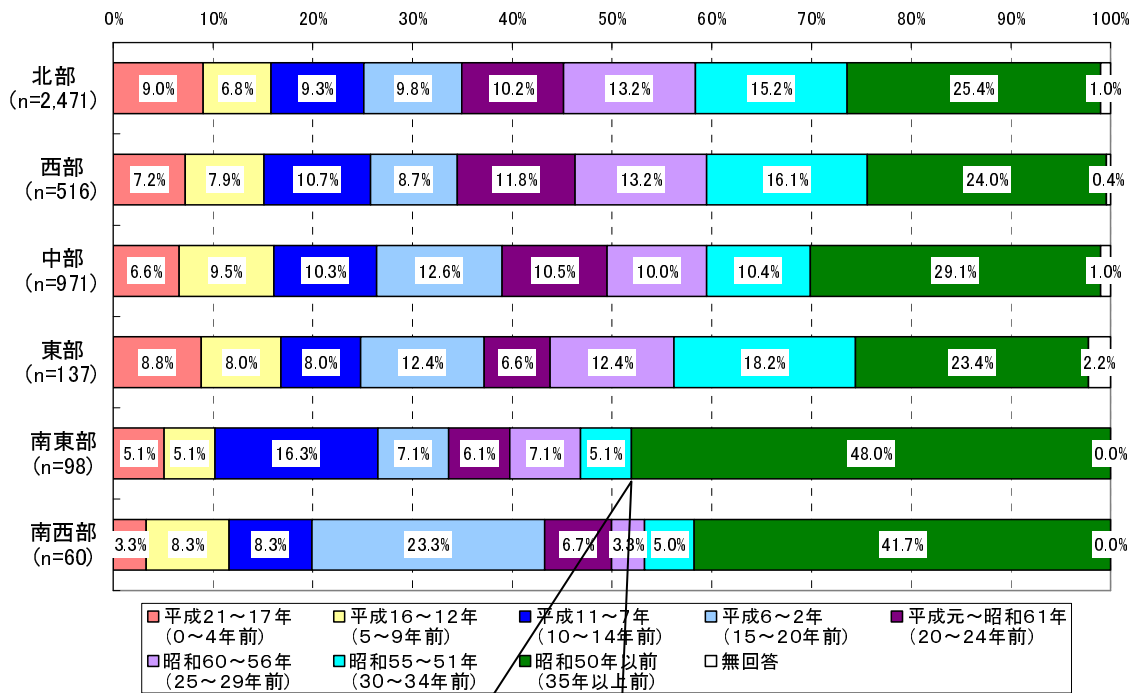
- ・ 県外から転居してきた世帯主においては、「昭和 50 年以前」に住み始めたという世帯主が多く、特に南東部・南西部では昭和 50 年以前に転居してきた世帯主が4割を超えている。
- ・ 世帯主が 30 歳未満の世帯のおよそ3分の2が「平成 21～17 年」に転居してきている。

図表VII-6 奈良に住み始めた時期

【全体】

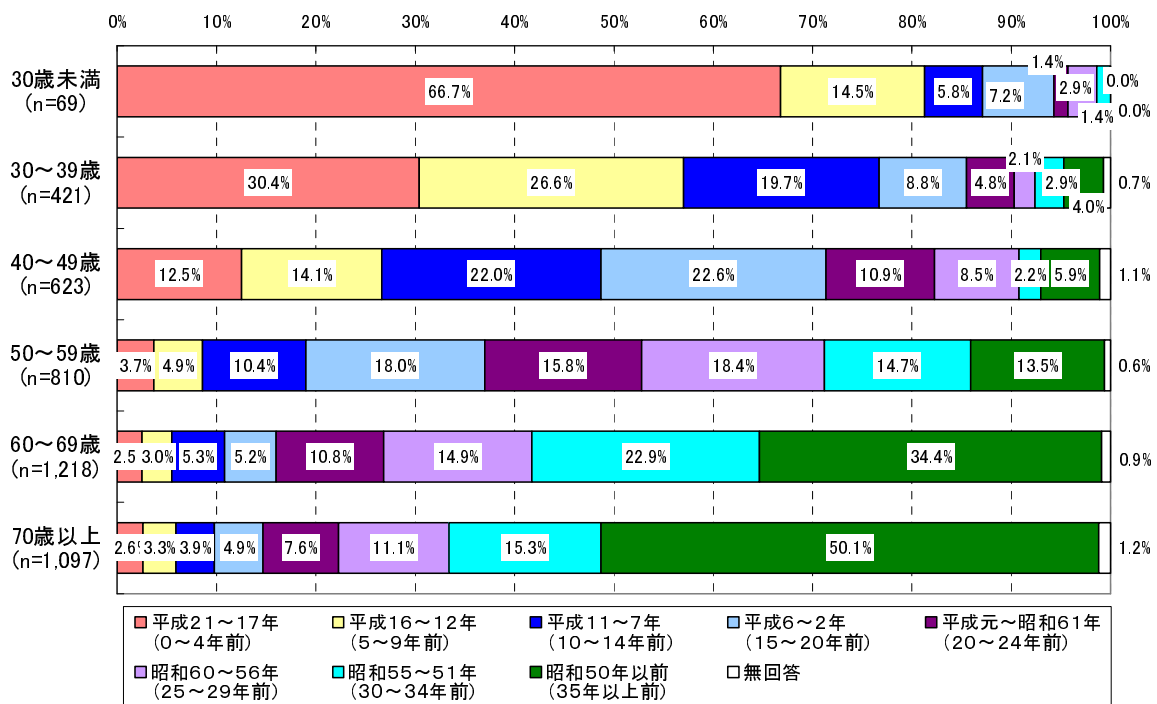


【地域別】



南東部で特に「昭和50年以前」という比率が高い。

【世帯主年齢別】

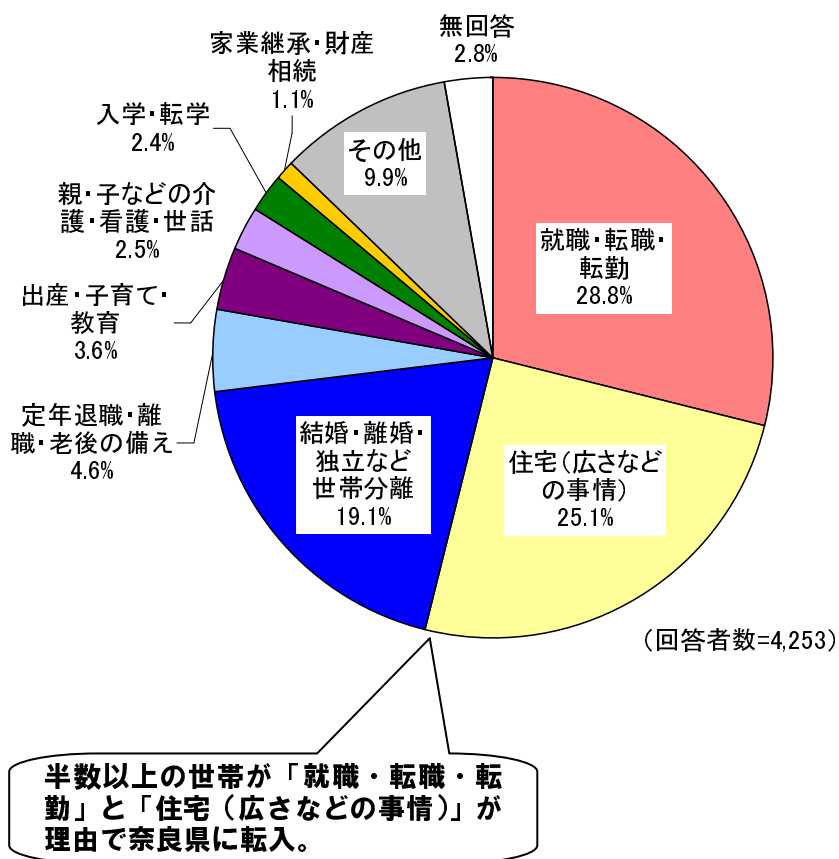


(4) 世帯主が奈良県に住むようになったきっかけ(問 3-3)

- ・「就職・転職・転勤」や「住宅(広さなどの事情)」をきっかけに奈良県に居住してきた世帯が多い。
- ・南東部や南西部では、「結婚・離婚・独立など世帯分離」、西部では「住宅(広さなどの事情)」といった回答が比較的多い。
- ・30未満では、「就職・転職・転勤」という比率が特に高い。

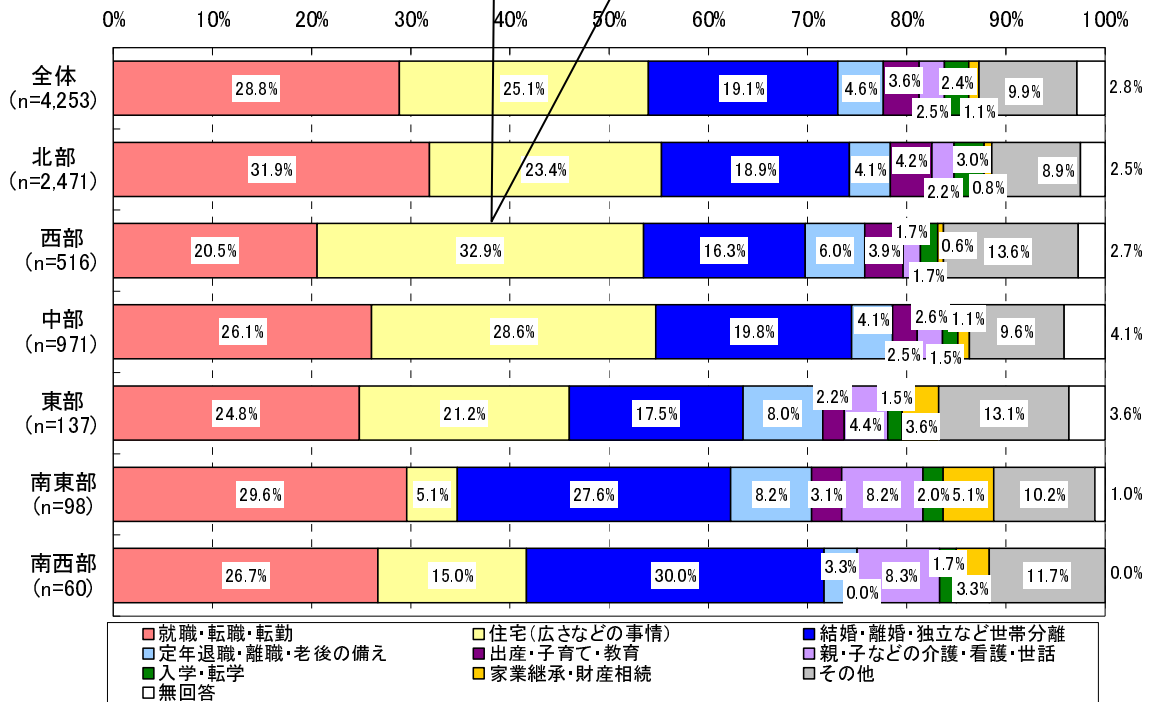
図表VII-7 世帯主が奈良県に住むようになったきっかけ

【全体】



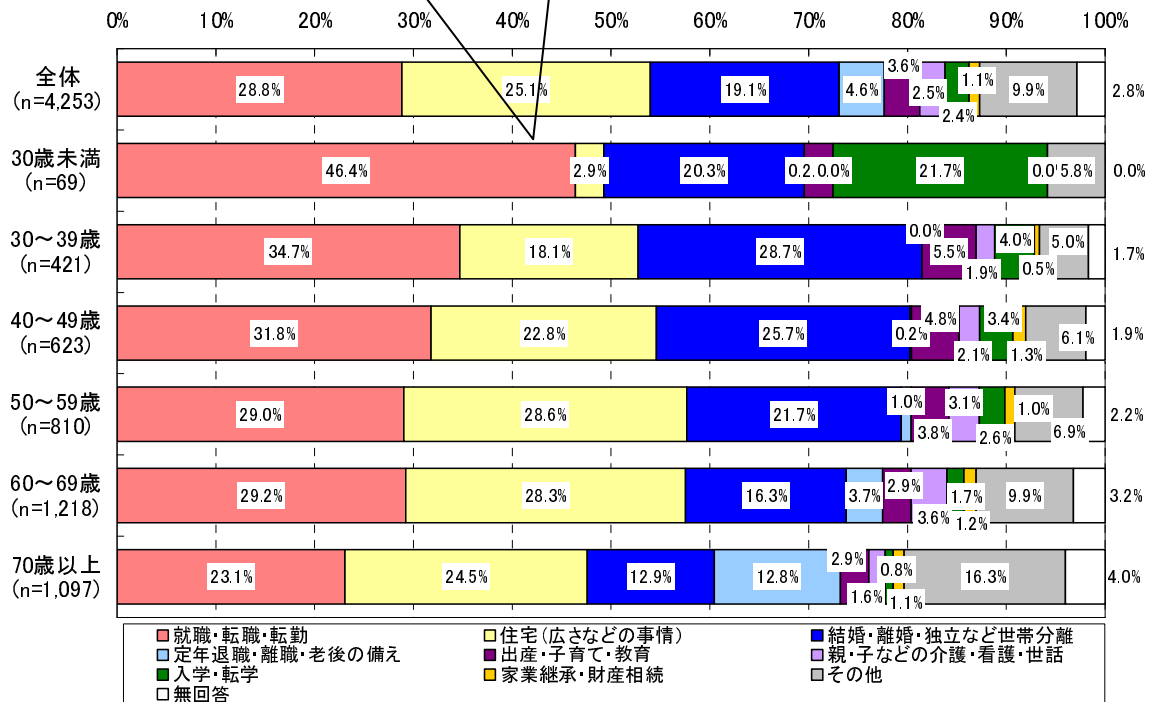
【地域別】

西部で特に「住宅(広さなどの事情)」
という比率が高い。



【世帯主年齢別】

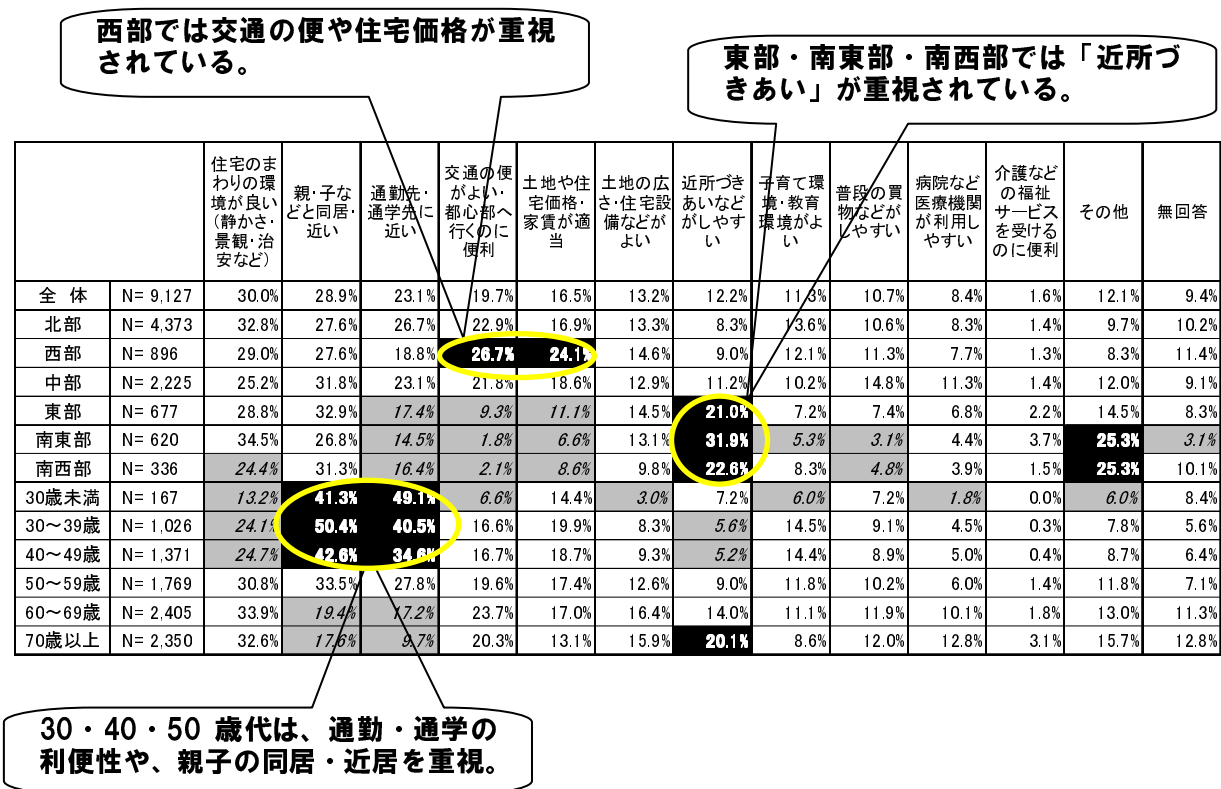
30歳未満は、「就職・転職・転勤」
が特に多い。



(5) 奈良県に住もうと決めた理由(問 3-4)

- ・「住宅のまわりの環境が良い(静かさ・景観・治安など)」「親・子などと同居・近い」「通勤先・通学先に近い」などが奈良県に住む・住み続ける理由として多い。
- ・30歳未満では「通勤先・通学先に近い」、30歳代では「親・子などと同居・近い」、70歳以上では「近所づきあいなどがしやすい」といった項目が、他の年代と比べて重視されている。

図表VII-8 奈良県に住もうと決めた理由(複数回答)



(注) 全体の回答率と比較して5ポイント以上大きい場合は**白抜き**、5ポイント以上小さい場合は**斜体**で示している。

VIII. 南和地域のくらしの特徴

1. 世帯の状況

(1) 世帯主の年齢構成と子どもの有無

- ・ 世帯主の年齢構成をみると、南和地域は 65 歳以上の高齢世帯主の比率が高く、特に、75 歳以上の世帯主の割合は、県全体との差が大きい。
- ・ 南和地域では、特に6歳未満の子どもがいる世帯の割合が低い。

図表VIII-1 世帯主の年齢

世帯主年齢別世帯数	南和地域		県全体	
	世帯数	割合	世帯数	割合
総数	956	100.0%	9,127	100.0%
15歳未満	0	0.0%	0	0.0%
15～24歳	0	0.0%	48	0.5%
25～34歳	17	1.8%	459	5.0%
35～44歳	86	9.0%	1,359	14.9%
45～54歳	133	13.9%	1,455	15.9%
55～64歳	215	22.5%	2,211	24.2%
65～74歳	240	25.1%	2,209	24.2%
75歳以上	262	27.5%	1,347	14.8%
無回答	3	0.3%	39	0.4%

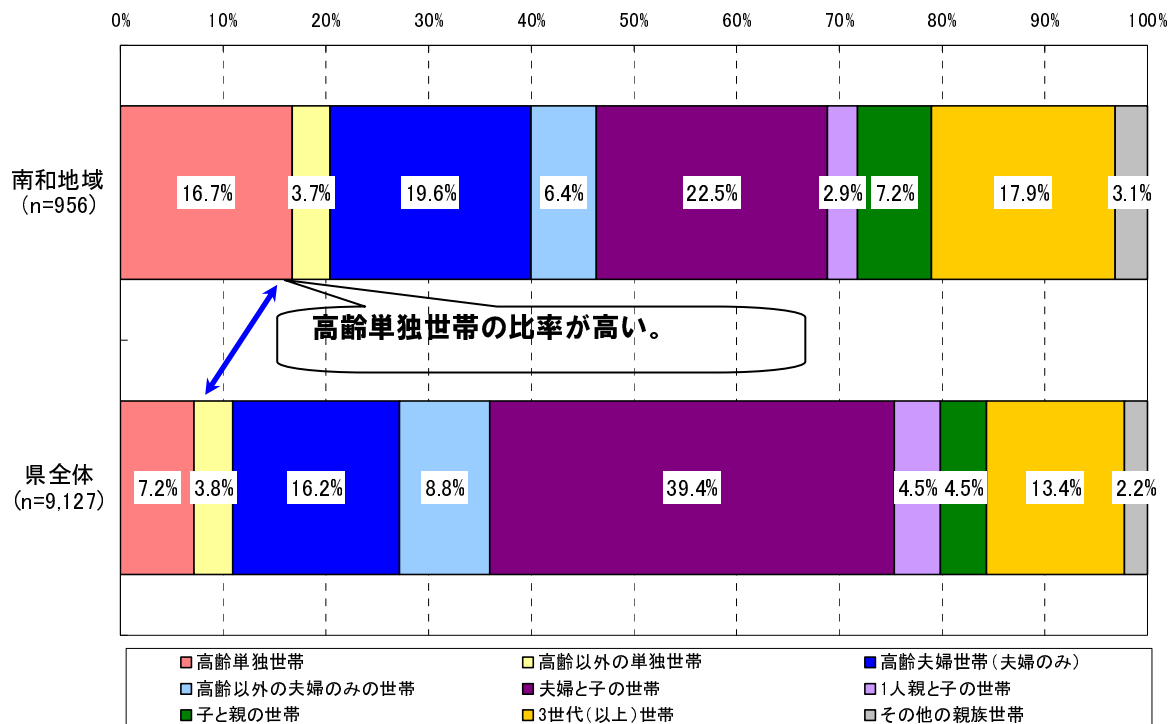
図表VIII-2 子どもがいる世帯(子どもの年齢別)

	南和		県全体	
	世帯数	割合	世帯数	割合
回答世帯総数	956	-	9,127	-
6歳未満の子どもがいる世帯	65	6.8%	1,041	11.4%
12歳未満の子どもがいる世帯	134	14.0%	1,891	20.7%
15歳未満の子どもがいる世帯	161	16.8%	2,309	25.3%
18歳未満の子どもがいる世帯	206	21.5%	2,700	29.6%
20歳未満の子どもがいる世帯	227	23.7%	2,960	32.4%

(2) 世帯類型

- ・ 南和地域における世帯類型をみると、高齢単独世帯の比率が高い。

図表VIII-3 世帯類型



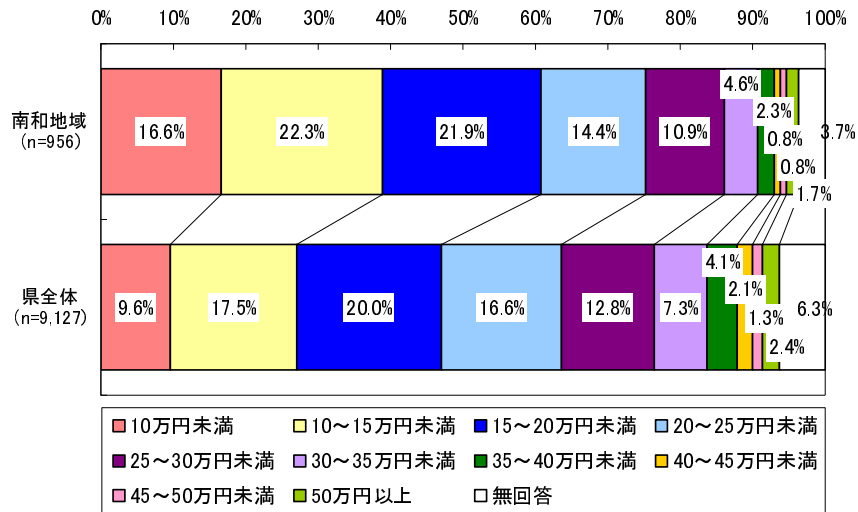
2. 経済状況

(1) 月間支出(問 22)

- ・ 南和地域における月間支出は、県全体と比較すると少なめであり、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯に限るとその傾向はさらに顕著である。
- ・ 支出額は6割の世帯が 20 万円未満に収まり、30 万円以上の支出をしている世帯はわずかである。

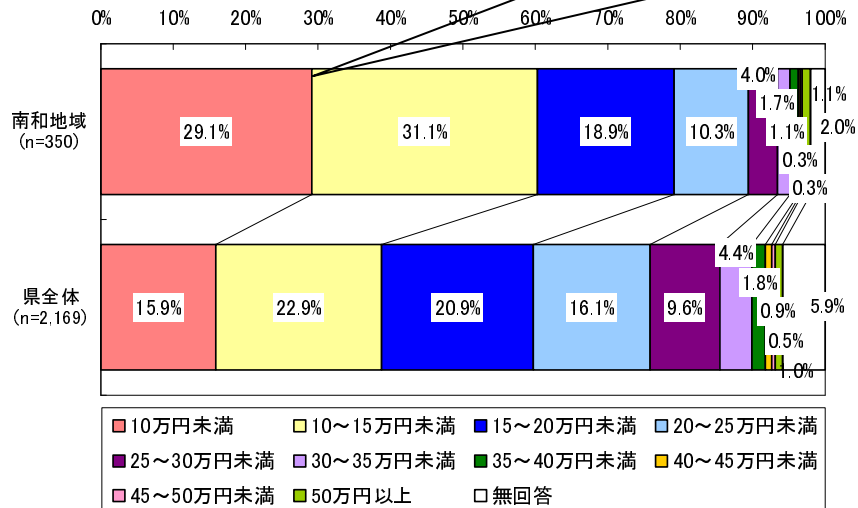
図表VIII-4 月間支出(税込)の状況

【全体】

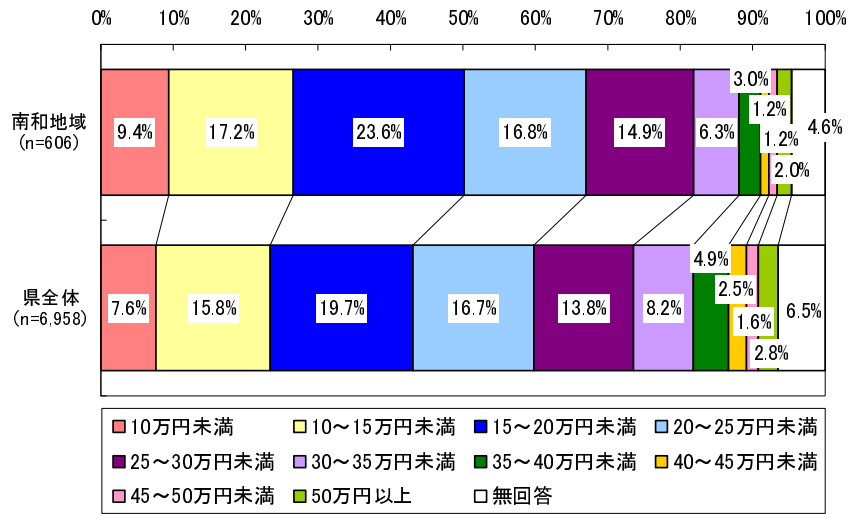


【高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯】

県全体に比べて支出が少額の世帯の比率が高い。



【高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯以外】

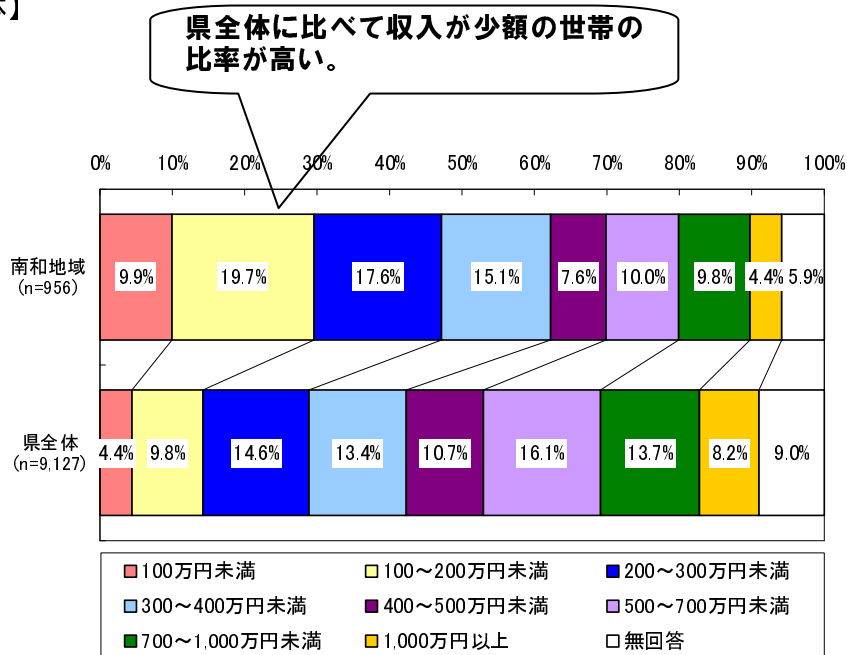


(2) 年間収入(問 22)

- ・ 南和地域における年間収入は、県全体と比較すると少なめである。
- ・ 南和地域では年間収入が 300 万円未満の世帯が全体の5割近くを占めている。

図表VIII-5 年間収入(税込)の状況

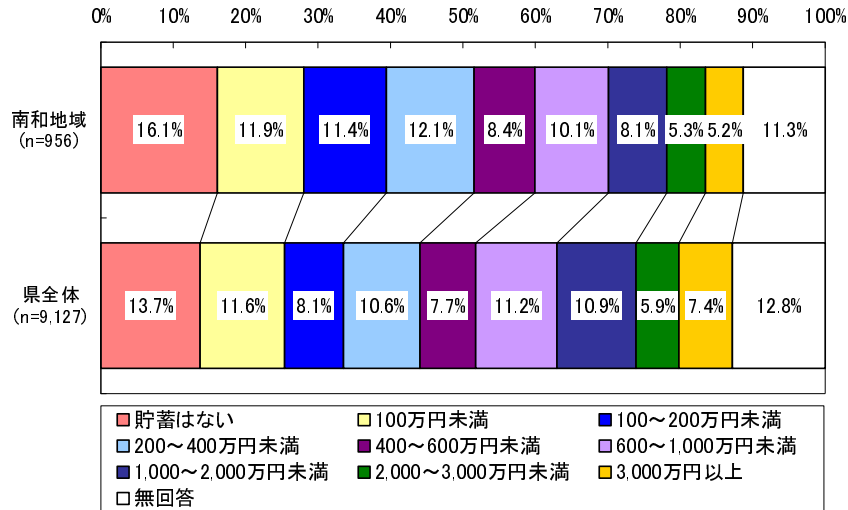
【全体】



(3)貯蓄の状況(問 24)

- ・ 南和地域では、県全体と比較すると貯蓄がない世帯の比率が高い。
- ・ 貯蓄がある世帯についても、その額は県全体に比べて少なめである。

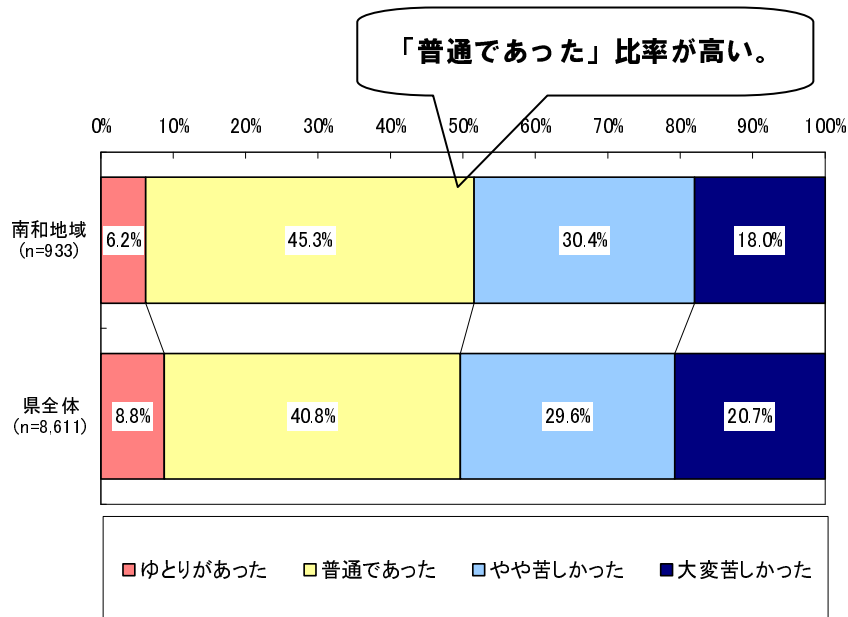
図表VIII-6 貯蓄の状況



(4)総合的な家計の状況(問 26)

- ・ 南和地域における総合的な家計の状況について、「やや苦しかった」「大変苦しかった」という回答をあわせた比率は、5割近くに達するものの、県全体の比率に比べるとやや低く、「普通であった」と回答している比率が高い。

図表VIII-7 総合的な家計のゆとりの状況

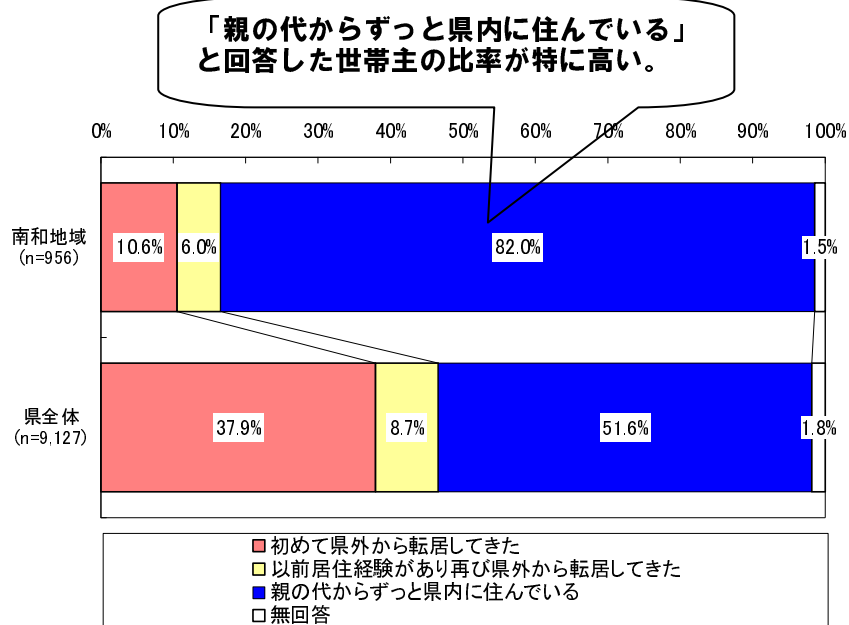


3. 定住

(1) 現在の居住状況と住み始めた時期(問 3-1・3-2)

- 南和地域では、「親の代からずっと県内に住んでいる」と回答した世帯主の比率が特に高い。

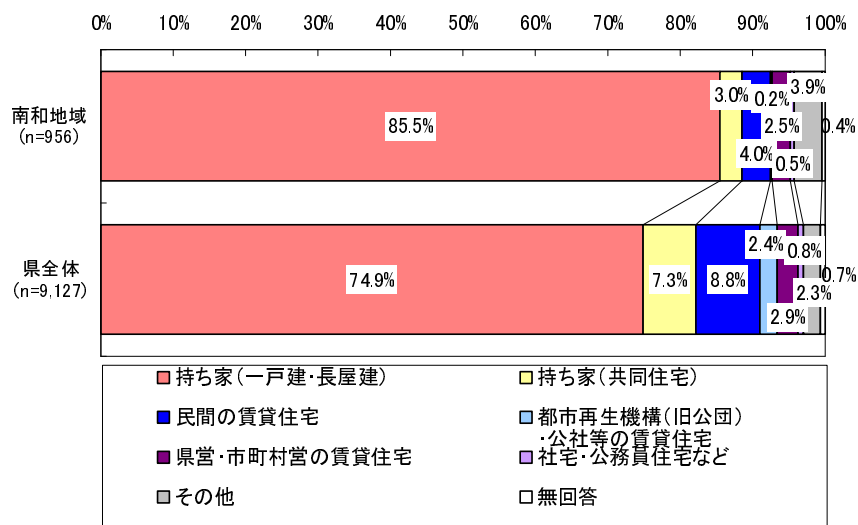
図表VIII-8 現在の居住状況



(2) 居住形態(問2)

- 南和地域では「持ち家(一戸建・長屋建)」に住んでいる世帯の比率が高い。

図表VIII-9 居住形態

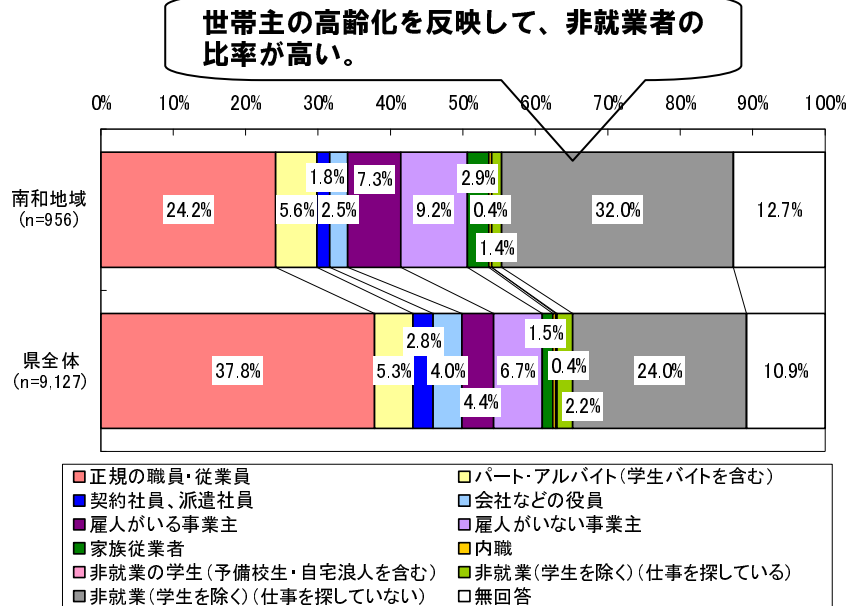


4. しごと

(1) 就業形態(問 1-⑤)

- 南和地域では、世帯主の高齢化を反映して、世帯主が「非就業(学生を除く 仕事を探していない)」である比率が県全体と比べて高い。

図表VIII-10 就業形態の内訳(世帯主)

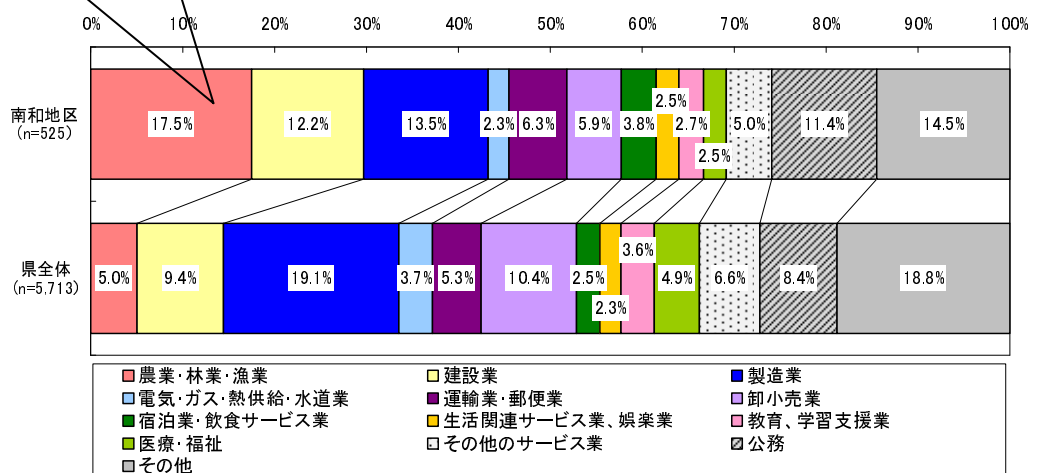


(2) 就業先の産業(問 1-⑥)

- 南和地域における世帯主の就業先は「農業・林業・漁業」や「建設業」の比率が県全体に比べて高く、「製造業」が県全体に比べて低い。

第一次産業や建設業の比率が高い。

図表VIII-11 就業先の主たる産業



(注1) 世帯主が就業している世帯を対象に集計。

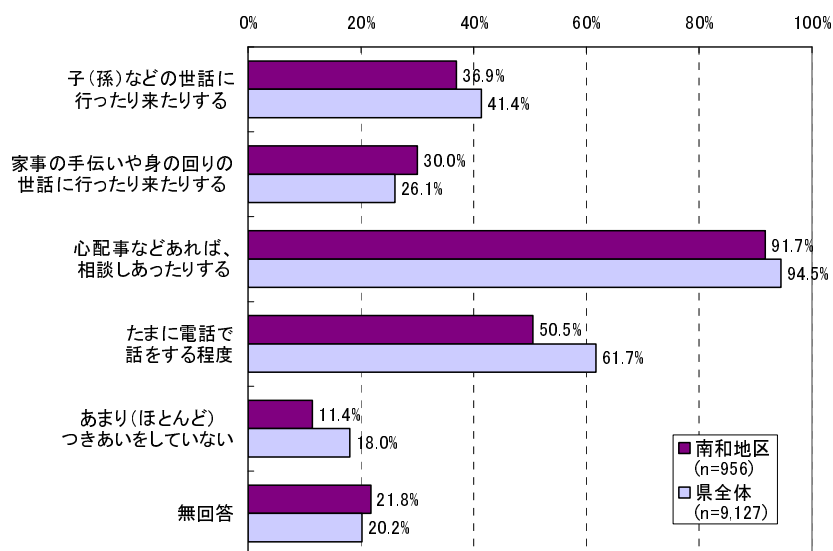
(注2) 構成比が5%未満の産業について「その他」として集計している。具体的な内訳は、鉱業・採石・砂利採取業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、その他。

5. まちづくり、地域と人のつながり

(1) 別居している親戚とのつながり(問 16)

- 南和地域では別居している親戚と、つきあいが少ないという世帯の比率は県全体に比べて低く、「家事の手伝いや身の回りの世話に行ったり来たりする」世帯の比率がやや高い。

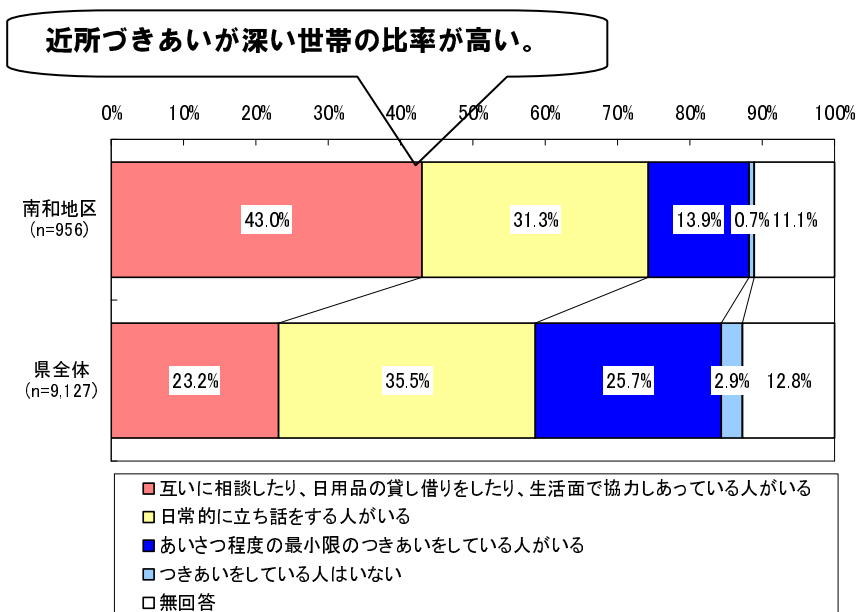
図表VIII-12 親戚とのつながりの深さ(複数回答)



(2) 近所づきあいの程度(問 17)

- 「互いに相談したり、日用品の貸し借りをしたり、生活面で協力しあっている人がある」という世帯の比率が高いなど、南和地域は県全体と比べて近所づきあいの程度が深い。

図表VIII-13 近所づきあいの程度





奈良県民の暮らしに関する調査
—分析結果報告書(概要版)—

奈良県総務部知事公室
統 計 課

奈良市登大路町 30 番地
電話: 0742(27)8439(直通)